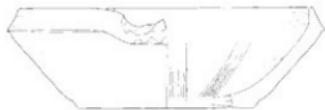


# 四万十市埋蔵文化財発掘調査報告

平成18年度～平成20年度試掘確認調査及び重要遺構確認調査



2011.3

四万十市教育委員会





ヲハカダンから  
四万十川を望む



ヲハカダン全景



# 四万十市埋蔵文化財発掘調査報告

平成 18 年度～平成 20 年度試掘確認調査及び重要遺構確認調査

2011.3

四万十市教育委員会



## 例　　言

1. 本書は平成 18 年度から平成 20 年度に、高知県四万十市内において実施した試掘確認調査及び重要遺構確認調査を報告するものである。

2. 現地調査の呼称、調査期間、担当者は以下の表のとおりである。

### 試掘確認調査

調　跡　名	調査記号	年度	調査期間	調査担当者	対象面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )
四角田道路	2006030	18	平成 18 年 12 月 21 日～平成 19 年 3 月 6 日	川村慎也	43,000	200
橋・津野川・津賀地区	2007021	19	平成 19 年 11 月 21 日～平成 20 年 1 月 24 日	川村慎也	66,104	610
津野川・津賀地区	2008012	20	平成 20 年 7 月 8 日～平成 20 年 7 月 15 日	川村慎也	12,380	357
津野川・津賀・飛井地区	2008013	20	平成 20 年 8 月 18 日～平成 20 年 11 月 21 日	川村慎也	61,421	976

### 重要遺構確認調査

調　跡　名	調査記号	年度	調査期間	調査担当者	対象面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )
香山寺跡	2006026	18	平成 15 年 3 月 4 日～平成 15 年 3 月 20 日	川村慎也	1,444	90
香山寺跡	2007023	19	平成 15 年 6 月 10 日～平成 15 年 7 月 4 日	川村慎也	1,444	25

3. 各調査は、四万十市教育委員会が主体となって調査をおこなった。

4. 現地での発掘作業参加者は、以下にあげるとおりである。

平成 18 年度 尾崎幸美、野町和人、前田啓子、安光七重

平成 19 年度 尾崎幸美、野町和人、前田啓子、安光七重

平成 20 年度 秋森正久、野町和人

5. 出土遺物等の整理作業は、四万十市教育委員会 生涯学習課 川村の指導のもと以下の参加者の助力を得た。

平成 20 年度 秋森正久

平成 21 年度 秋森正久、細川節、野町和人

6. 本書の執筆、編集は四万十市教育委員会 生涯学習課 川村が担当した。

7. 調査の実施と本書の作成にあたり、高知県教育委員会文化財課、(財)高知県埋蔵文化財センター諸氏よりご指導、ご助言を、また当市都市整備課、工事関係者、ならびに近隣にお住まいの方々には多大なご支援とご協力をいただいた。ここに銘記して謝意を表す。

8. 当調査に関わる遺物、写真、図面等は、四万十市教育委員会 生涯学習課 [TEL088034]7311]において保管している。



## 目 次

原色写真図版

例 言

第Ⅰ章 試掘確認調査の成果 ..... 1

第1節 調査に至る経過 ..... 1

第2節 各地区的調査成果 ..... 2

第Ⅱ章 重要遺構確認調査の成果 ..... 59

第1節 調査に至る経過 ..... 59

第2節 ヲハカダンの調査 ..... 60

写真図版

報告書抄録

## 図版目次

### 第Ⅰ章 試掘確認調査の成果

#### 第1節 調査に至る経過

図1 調査地点区分図

1

図32 坂本地区トレント配置図	35
図33 坂本地区柱状図1	36
図34 坂本地区柱状図2	37
図35 坂本地区柱状図3	38
図36 坂本地区柱状図4	39

#### 津賀地区 (D区)

##### 第2節 各地区的調査成果

###### 用井地区 (A区)

図2 用井地区周辺位置図	3	図37 津賀地区周辺位置図	40
図3 用井地区トレント配置図	4	図38 コブキ地区トレント配置図	42
図4 用井地区柱状図1	5	図39 コブキ地区～中央地区柱状図	43
図5 用井地区柱状図2	6	図40 中央地区トレント配置図1	44
図6 用井地区柱状図3	7	図41 中央地区柱状図1	45
図7 用井地区柱状図4	8	図42 中央地区柱状図2	46
		図43 中央地区柱状図3	47
		図44 中央地区柱状図4	48
		図45 中央地区柱状図5	49
		図46 中央地区柱状図6	50

###### 橋地区 (B区)

図8 橋地区周辺位置図	9	図47 中央地区トレント配置図2	51
図9 橋地区トレント配置図	10	図48 中央地区トレント配置図3	52
図10 橋地区柱状図1	11	図49 中央地区トレント配置図4	53
図11 橋地区柱状図2	12	図50 中央地区柱状図7	54
		図51 中央地区柱状図8	55
		図52 中央地区柱状図9	56

###### 津野川地区 (C区)

図12 津野川地区周辺位置図	13	図53 中央地区柱状図10	57
図13 沖台地区トレント配置図	14	図54 D-46遺構平面図	58

###### 沖台地区柱状図1

図14 沖台地区柱状図1	15	図55 香山寺跡及び調査地点位置図	59
図15 沖台地区柱状図2	16	第Ⅱ章 重要遺構確認調査の成果	
図16 沖台地区柱状図3	17	第1節 調査に至る経過	
図17 沖台地区柱状図4	18		
図18 C-5平面図	19	第2節 ヲハカダンの調査	
図19 ホバゴ谷地区トレント配置図	20	図56 ヲハカダン トレント配置図	61
図20 ホバゴ谷地区柱状図1	21	図57 Tr-2 遺構平面・断面図	63
図21 ホバゴ谷地区柱状図2	22	図58 Tr-3 遺構平面図	64
図22 学校前地区トレント配置図	24	図59 Tr-3 遺構断面図	65
図23 寺の前地区トレント配置図	25	図60 Tr-4 及び拡張区 遺構平面図	66
図24 学校前・寺の前地区柱状図1	26	図61 Tr-4 及び拡張区 遺構断面図	67
図25 学校前・寺の前地区柱状図2	27	図62 Tr-4 拡張区 東側壁面図	68
図26 ウリウ子地区トレント配置図	28	図63 Tr-5 遺構平面図	69
図27 ウリウ子地区柱状図1	29	図64 Tr-5 遺構断面図	70
図28 ウリウ子地区柱状図2	30	図65 Tr-6 遺構平面・断面図	71
図29 トイクラ地区トレント配置図	32	図66 Tr-7 遺構平面・断面図	72
図30 トイクラ地区柱状図1	33	図67 出土遺物1 (1/3)	73
図31 トイクラ地区柱状図2	34	図68 出土遺物2 (1/3)	73

## 第Ⅱ章 重要遺構確認調査の成果

### 第1節 調査に至る経過

#### 第2節 ヲハカダンの調査

図56 ヲハカダン トレント配置図	61
図57 Tr-2 遺構平面・断面図	63
図58 Tr-3 遺構平面図	64
図59 Tr-3 遺構断面図	65
図60 Tr-4 及び拡張区 遺構平面図	66
図61 Tr-4 及び拡張区 遺構断面図	67
図62 Tr-4 拡張区 東側壁面図	68
図63 Tr-5 遺構平面図	69
図64 Tr-5 遺構断面図	70
図65 Tr-6 遺構平面・断面図	71
図66 Tr-7 遺構平面・断面図	72
図67 出土遺物1 (1/3)	73
図68 出土遺物2 (1/3)	73

## 第1章 試掘確認調査の成果

### 第1節 調査に至る経過

四万十市は、西土佐中央地区における中山間地域の生産基盤と農業経営環境の整備を一体的にはかる目的で、平成19年度～平成23年度にかけて、中山間地域総合整備事業を計画・実施している。当該事業は西土佐用井、西土佐橋、西土佐津野川、西土佐津賀の4地区において実施される区画整理(18.8ha)、用水路設置(1,350 m)、生態系保全施設の建設を主とする整備事業である。

当該事業が計画された地域は、埋蔵文化財について分布調査以外の確認が行われたことの殆ど無い地域であり、当該事業で計画された工事の多くは現況の水田面及びその近隣の地形を変更することを前提としたものであったため、地下に残存する遺跡が存在した場合、工事による損壊を免れないことが危惧された。また、今回のように広域で開発行為の計画されることは当該地域では少なく、これを機会に埋蔵文化財の分布及びその残存状況を把握することは、今後の文化財保護行政上重要であるとの立場から、周知の埋蔵文化財抱蔵地の有無に関わらず事業地内で掘削を予定する箇所について試掘確認調査を実施することとした。調査は事業実施を予定する橋、津野川、津賀、用井の4工区において、事業の進捗状況にあわせ、平成18年～平成21年度にかけて5回に分けて実施した。各調査は工事着手時期に合わせて実施したため、複数の工区にまたがるものとなった。

本報告では、調査ごとに整理することで同一エリアの状況が調査単位で分散し煩雑になることを避けるため、工区毎に調査を再整理し、上記4工区をそれぞれA～Dの4地区として整理した(図1)。以下では各地区ごとに調査の状況を記述する。



▶ 図1 調査地点区分図 (1/25,000)

## 第2節 各地区的調査成果

以下で述べる各地区的調査については、工区ごとに実施されておらず、1つの調査に複数の工区の調査地が混在している。報告では工区（調査区）ごとに記述するが、調査との対応関係を下表に示す。

調査区記号	地区名	調査記号	調査面積 (m <sup>2</sup> )	トレンチ番号	北緯 東経
A 区（用井）	用井（下流側）	2008013	256	A-1 ~ 20	33度9分40秒 132度47分50秒
	用井（上流側）	2009001	344	別冊で報告	33度9分44秒 132度47分48秒
B 区（橋）	橋	2007021	117	B-1 ~ 9	33度9分18秒 132度47分44秒
C 区（津野川）	沖台	2006030	200	C-1 ~ 19	33度8分56秒 132度46分58秒
	ホバゴ谷	2008013	96	C-20 ~ 28	33度9分6秒 132度46分51秒
	学校前・寺の前	2008013	240	C-29 ~ 43	33度9分2秒 132度46分56秒
	ウリウ子	2007021	63	C-44 ~ 50	33度8分46秒 132度46分55秒
	トイクラ	2008012	325	C-51 ~ 61	33度8分30秒 132度46分56秒
	坂本	2007021	162	C-62 ~ 79	33度8分20秒 132度46分53秒
D 区（津賀）	コブキ	2007021	36	D-1 ~ 5	33度8分2秒 132度46分27秒
	中央地区	2007021	216	D-6 ~ 28	33度8分3秒 132度46分4秒
		2008013	384	D-29 ~ 52	33度8分30秒 132度46分56秒
	ブデン	2007021	16	D-53 ~ 54	33度8分12秒 132度46分13秒
	江尻	2008012	32	D-55 ~ 56	33度8分2秒 132度46分12秒

### （1）用井地区（A 区） 図2～図7

**用井地区的概要** 用井地区は、周知の埋蔵文化財包蔵地に近接するエリアである。弘岡遺跡は丘陵先端部に立地する縄文時代と室町時代の遺物が採取される散布地であり、今回の調査地点はその前面に広がる河岸段丘上に位置している。また、弘岡遺跡からは縄文時代の石錐が出土しており、付近で河川に伴う漁労が営まれていたことが示唆されていた。これらのことから今回の調査では弘岡遺跡に関連した縄文時代もしくは中世期の生活面の確認がなされる可能性が高いものと期待された。

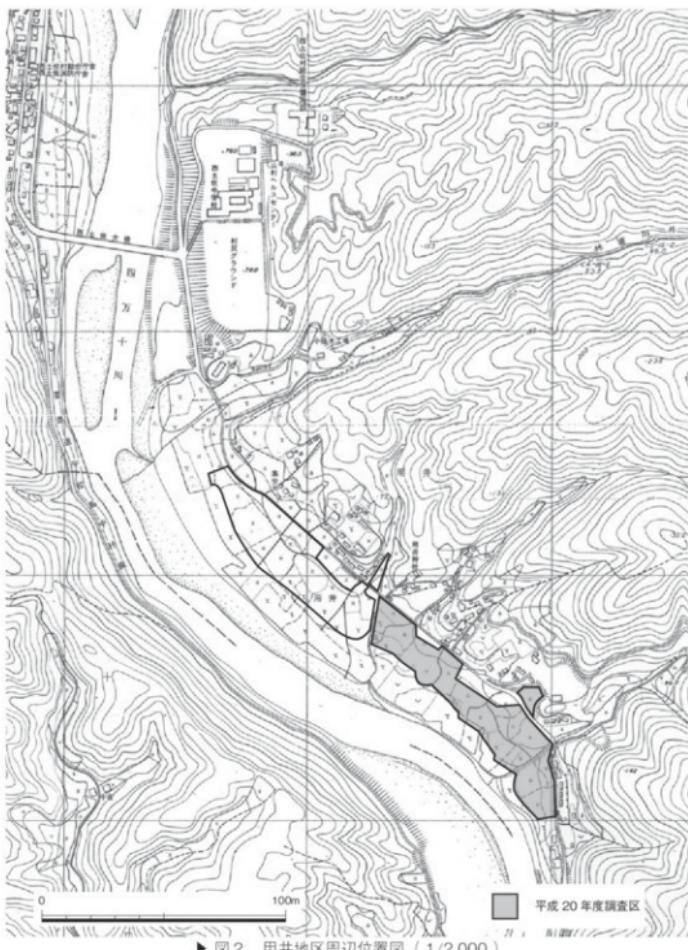
調査実施時点で、当該地区的調査対象地はすべて水田として利用されており、水田の形状は概ね旧来の地形に沿ったものと考えられた。

なお、平成21年度に実施した北半部の試掘確認調査の成果については『四万十市文化財調査報告 第5輯 ヲキショウジ遺跡』において報告する。

**基本層序** 用井地区における土層の堆積状況は河川に近接するにも関わらず比較的安定している。

現耕作土を除去すると、数面の旧耕作層が確認され、以下はややグライ化したシルト～極細粒砂層と褐灰色極細粒砂層が互層に堆積する。大半のトレンチで現地表面から概ね2m～2.5m掘削して状況を確認しているが、現在の道路に近い比較的高位にある水田については、浅い段階で黄白色シルト（疊含む）の基盤層が確認されている。また、A-14では盛り土による水田の拡大が認められる。

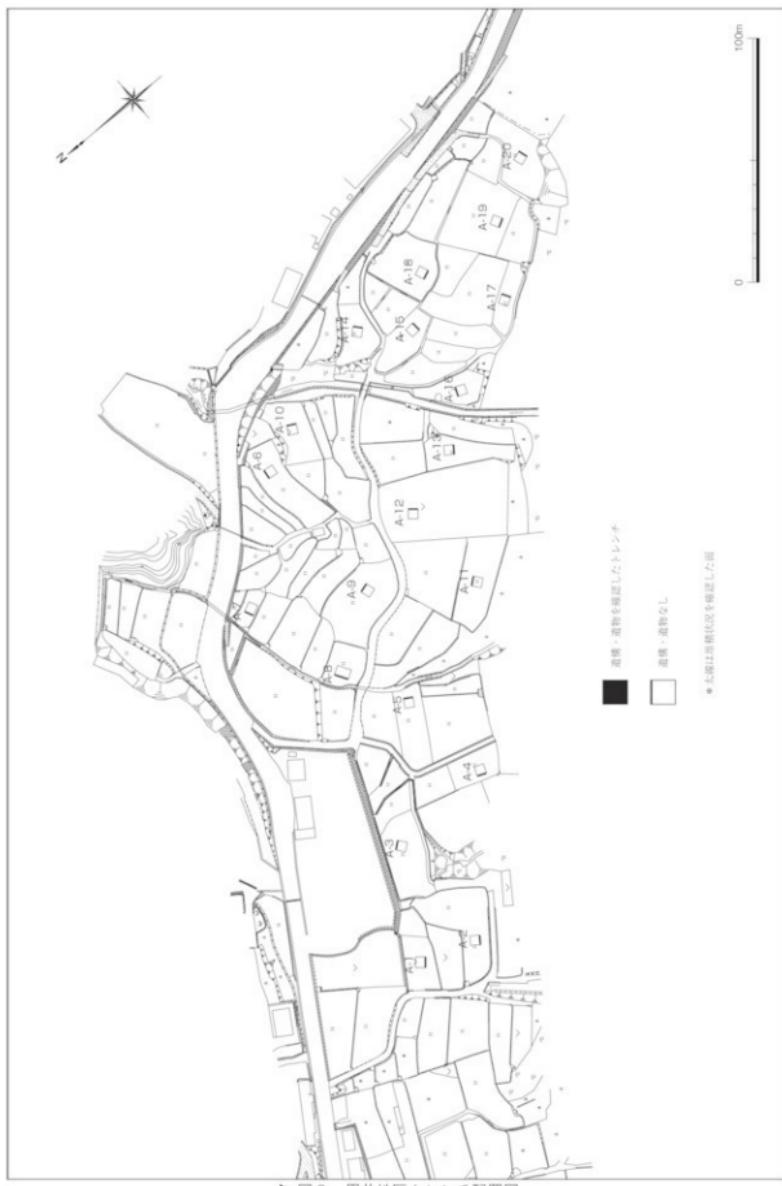
**調査の成果** 当該調査地区ではいずれのトレンチから遺構・遺物を確認していない。堆積状況を見る限り当該地域は水田としての土地利用が継続された場所であり、河川の氾濫等の影響を受けて一時

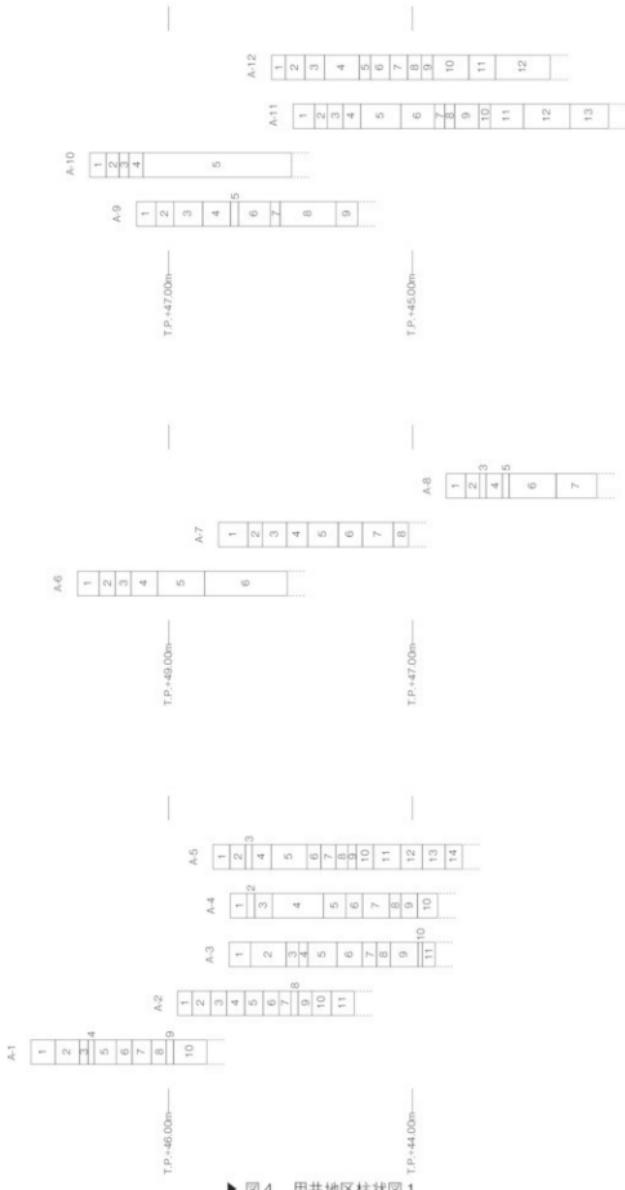


▶ 図2 用井地区周辺位置図（1/2,000）

期農地として利用されない場合も土壤の安定後は再び農地としての利用が再開されている。したがって、当該地点において埋蔵文化財の残存する可能性は低いものと考えられる。

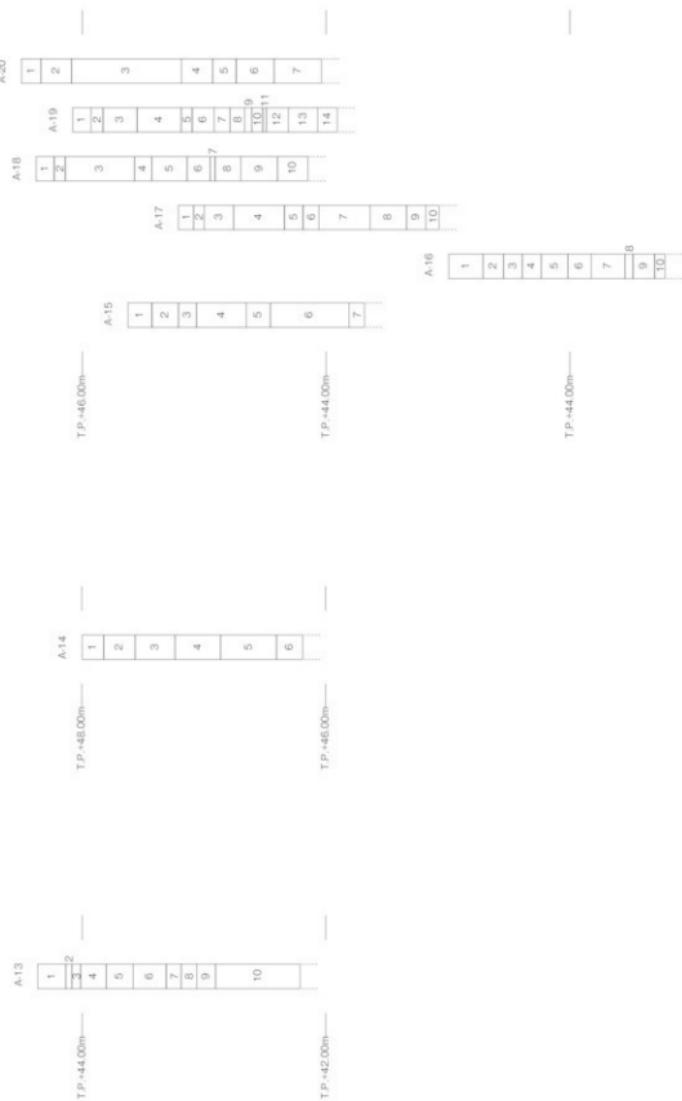
今次の調査から弘岡遺跡の広がりは道路以西には至っておらず、範囲指定されている丘陵側もしくは上流側に広がりを検討する必要があるものと考えられた。また、当該地区において引き続き平成21年度に実施した調査では、上流側の水田において縄文時代晩期～弥生時代にかけての遺物・遺構が確認され、新たにヲキショウジ遺跡として新設された。平成21年度の用井地区試掘確認調査の成果については、上記報告書に掲載する。





► 図 4 用井地区柱状図 1





▶ 図6 用井地区柱状図3

A.13

5.1078E1 開区-5.1 開区 植物群落-シート

6.3579E1 開区-6.1 開区 植物群落-シート 土上

7.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

8.1078E1 開区 植物群落-シート やや乾燥

9.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

10.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

11.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

12.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

13.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

14.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

A.17

1.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

3.1078E2 開区 植物群落-シート 土上

4.1078E2 開区 植物群落-シート 土上

5.1078E2 開区 植物群落-シート 土上

6.1078E2 開区 植物群落-シート 土上

7.1078E2 開区 植物群落-シート 土上

8.1078E2 開区 植物群落-シート 土上

9.1078E2 開区 植物群落-シート 土上

10.1078E2 開区 植物群落-シート 土上

A.14

1.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

2.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

3.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

4.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

5.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

6.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

7.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

8.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

9.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

10.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

A.15

1.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

2.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

3.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

4.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

5.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

6.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

7.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

8.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

9.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

10.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

11.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

13.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

14.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

5.1078E2 開区-5.1 開区 植物群落-シート

6.3579E1 開区 植物群落-シート 土上

7.1078E2 に近い開区 植物群落-シート やや乾燥

8.1078E2 に近い開区 植物群落-シート 土上

9.1078E2 に近い開区 植物群落-シート 土上

10.1078E2 に近い開区 植物群落-シート 土上

A.20

1.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

2.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

3.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

4.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

5.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

6.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

7.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

8.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

9.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

10.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

11.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

12.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

13.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

14.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

A.16

1.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

2.1078E1 開区-5.1 開区 植物群落-シート

3.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

4.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

5.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

6.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

7.1078E1 開区-6.1 開区 小さな砂質

8.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

9.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

10.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

A.19

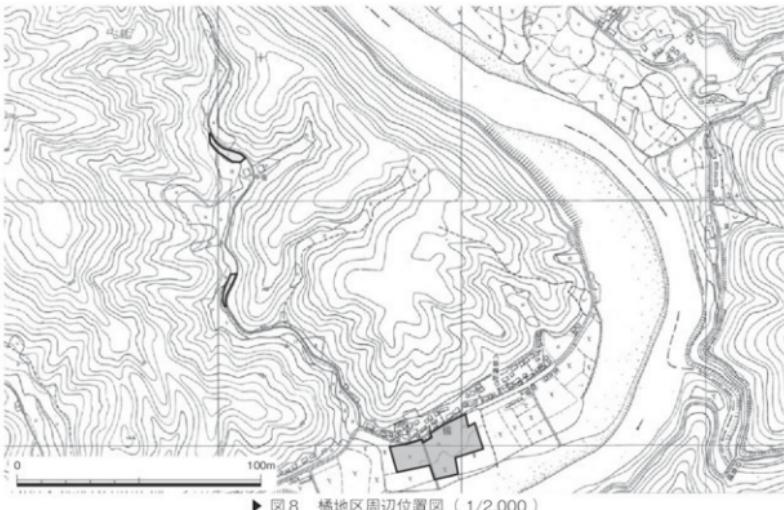
1.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

2.1078E1 開区-6.1 開区 植物群落-シート

3.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

4.1078E1 開区 植物群落-シート 土上

図 7 用井地区柱状図 4



### （2）桶地区（B区）図8～図11

四万十川左岸に位置する集落前の水田域と、支流上部に位置する牧場前に広がるは場を対象とした。桶地区集落前に位置する1～9のトレンチでは、B-1～5およびB-8で遺物を確認している。いずれも地表から1～1.2mほどの層位に近世期もしくはそれ以降の時期の所産と考えられる遺物が含まれている。B-4では直径約40cmの柱穴1基を確認している。柱穴は旧耕作土である7層上面で検出されており、柱痕が残る。時期は判然としない。

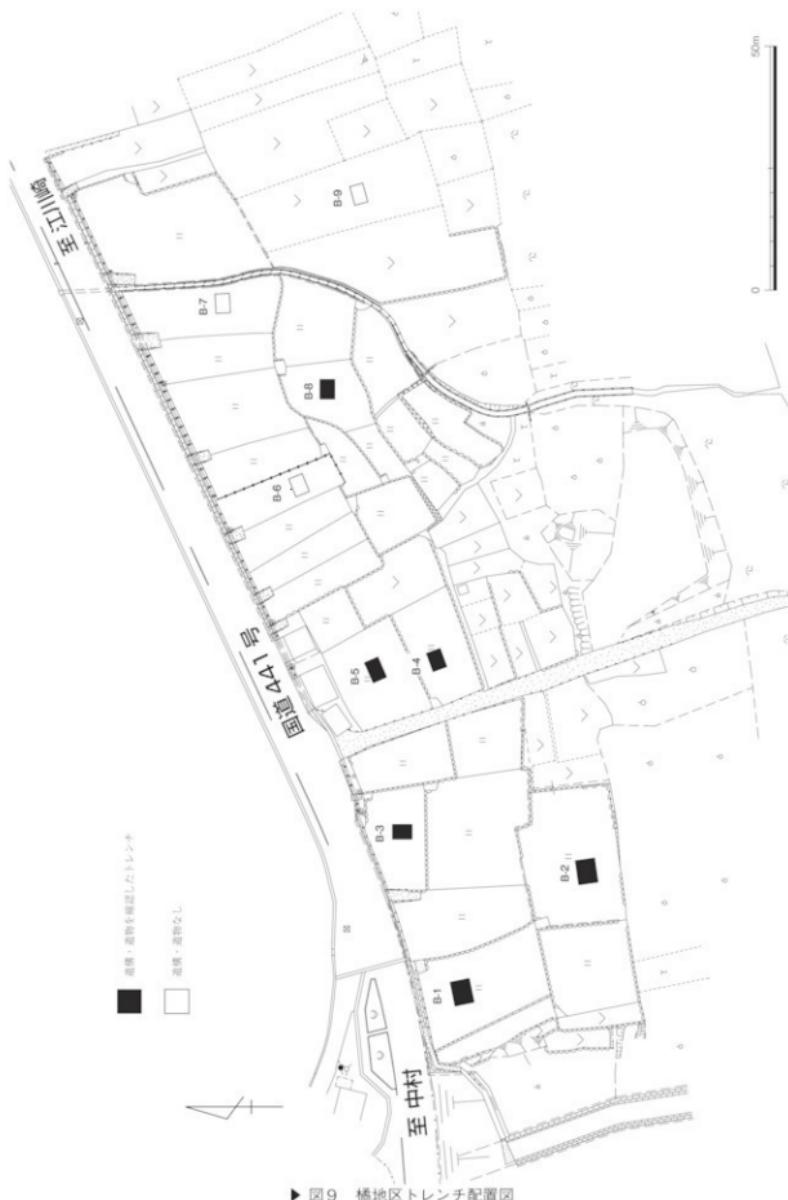
橋地区のなかで、支流上部に位置する牧場前と標記した箇所に設定したのはB-10～13の4トレンチである。いずれのトレンチからも遺物・遺構は確認されていない。上流部では現耕作土の直下から基盤層である丘陵疊層が確認される。上流部についての図は割愛する。

### （3）津野川地区（C区）

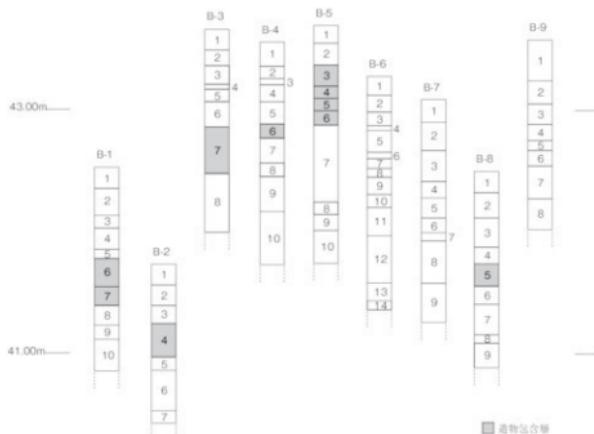
#### 1 沖台地区（図13～図18）

**沖台地区的概要** 当該地区は、四万十川の支流のひとつ目黒川の左岸に位置し、かつて表面採取された遺物から縄文時代の遺跡として認知されていた。また、北側の丘陵頂上部には16世紀頃に利用された辰巳城跡の存在が知られており、周辺の地形から城跡に伴う集落域は当該地点周辺に存在すると考えられることから中世段階においても集落等が営まれた可能性も考慮する必要があるものと想定されていた。

しかし、これまでに周辺での発掘調査等は実施されておらず、遺跡の性格、残存状況等については明らかでなかった。今回、既知の四角田遺跡範囲を超えて、その周辺を含めた県道から河岸に至る地域に試掘確認調査を実施することにより、四角田遺跡の残存状況、時期、性格等が明らかにされるこ



▶ 図9 橋地区トレンチ配置図



## B-1

1. 10YR3/1 黒鶴 細粒粘土～シルト しまった粘質土 (耕作土)  
2. 10YR4/1 楊灰(～5/1鶴灰)灰灰 細粒粘土～細粒砂 粘斑少量混入

3. 10YR6/6 明黄鶴 細粒粘土～中粒砂 やや粘質 2層が30%混入

4. 10YR5/6 黄鶴 細粒砂～粗粒砂 やわらかい砂質

5. 10YR5/1 楊灰 シルト～粗粒砂 灰～粘質の砂質 内層以下グラス

6. N5/0 灰白 シルト～無粒粘土 やや粘質強い 粗粒分厚少量混入 (含合層)

7. 2.5GY5/1 オリーブ灰 シルト～粗粒砂 やや粘質 粗粒分厚少量含む (含合層)

8. 10YR5/1 楊灰 シルトに10YR5/6黃鶴鉄分斑が混入 ややしまる

9. 7.5GY4/1 緑縞灰 シルト～中粒砂若干無粒砂混入 灰～粘質

10. N4/0 灰(～3/0暗灰) シルト～中粒砂)やや粘質 水分含み漏水する

## B-2

1. 10YR3/1 黒鶴(～4/1鶴灰) 細粒粘土～シルト (耕作土)

2. 10YR5/3 にじむ 黄鶴 中粒砂～粗粒砂 上部に粗分沈する均質な砂層

3. 10YR5/3 にじむ 黄鶴 中粒砂～粗粒砂 均質な砂層

4. 10YR5/3 にじむ 黄鶴 中粒砂 均質な砂層 (含合層)

5. 10YR4/2 黄鶴 粗粒砂 均質な砂層

6. 10YR5/3 にじむ 黄鶴 中粒砂～粗粒砂 均質な砂層

7. 10YR4/2 仄黄鶴 中粒砂～粗粒砂 砂層

8. 10YR5/3 にじむ 黄鶴 中粒砂～粗粒砂 砂層

B-3

1. 10YIC3-1 黒鶴 細粒粘土～シルト (耕作土)

2. 10YR6/6 明黄鶴 細粒粘土～シルト  $\phi 3\sim 5$ mm程シルトブロック少量混入 束上及び豊根層 (含合層)

3. 10YR5/1 楊灰 細粒砂～中粒砂  $\phi 1\sim 3$ mm程シルトブロック少量混入 ややしまる砂層

4. 2.5Y7/6 明黄鶴 シルト～無粒粘土 ブロック灰に厚積炭化物含む～ $\phi 2.5$ Y6/1 黃灰無粒砂層 硫化しまる

5. 2.5Y6/1 黄灰 無粒粘土 しまった堆積層に2.5Y7/6明黄鶴シルトブロック $\phi 2\sim 15$ mm少量混入

6. 2.5Y6/1 黄灰 細粒粘土～中粒砂 ややしまる砂層 マンガン斑少量混入 黄沙沈着する

7. 10YR4/2 仄黄鶴 シルト(～無粒粘土) 粘質あり  $\phi 10\sim 30$ mm粗礫多(混入 (含合層))

8. 10YR5/2 仄黄鶴 シルト(～無粒粘土)  $\phi 10\sim 30$ mm粗礫少量混入

▶ 図 10 橋地区柱状図1

11

B-4

1. 25YR6-1 黒灰 無細粒砂～シルト (耕作土)
2. 25Y6-2 黑灰 無細粒砂 しまった層 粗細粒砂少量含む
3. 25Y7-6 明黃褐 無細粒砂 灰粗細粒砂少量含む
4. 25Y6-1 黑灰 無細粒砂～シルト
5. 25Y7-6 明黃褐 無細粒砂～粗粒砂 平行層積
6. 25Y6-1 黃灰 無細粒砂～粗粒砂 遺物有(包含層)
7. 25Y7-6 明黃褐 無細粒砂～シルト しまった層
8. 25Y6-1 黃灰 粗粒砂 サラサラ
9. 25Y6-1 黃灰 粗粒砂～中粒砂 10YR1-6 基本粗粒砂混じる
10. 25Y6-1 黑灰と 10YR4-6 粗粒砂 ラミナ呈す
11. 25Y5-3 黄褐色と 10YR5-3 に似た黄褐色 ラミナ平行層積 下部ほど粗くなる

8. 7.5GY7-1 明緑灰 粗粒砂 NA.0灰に変質 少量シルト混

9. N5-0灰 シルト～粗粒砂 固結質 植物遺体混

10. 10YR3-2 黑褐 シルト～無細粒砂 粘質 植物遺体

B-5

1. 10YR5-1 黒灰 無細粒砂～粗粒砂 (耕作土)
2. 10YR7-4 に似た黄褐色 細粒砂～中粒砂 少量入 黄分沈着
3. 10YR5-1 黒灰 無細粒砂～中粒砂 固い砂層
4. 10YR7-4 15.5IV 黄褐 粗粒砂～中粒砂 上部シルト多く混入し粘質
5. 10YR5-2 黑灰黃褐 シルト～無細粒砂 若干無粒砂混 やや粘質しまる
6. 10YR6-2 黑黃褐 無細粒砂～中粒砂 黄分沈着 粘質
7. 10YR6-6 明黃褐 中粒砂～粗粒砂 ラミナ堆積
8. 10YR6-1 黒灰 中粒砂～粗粒砂 砂層 ラミナ 下部鉄分沈着
9. 5DG6-1 黑灰 中粒砂～粗粒砂 ラミナ 若干シルト混入
10. N4-0灰 (~3.0 塙場) シルト φ2~3mm白鐵難溶 φ20~30微少量有 磷物遺存

6. 4層と同じ 下部に 5層と同じ無細粒砂が少量混入

7. 10YR4-3 に似た黄褐色 無細粒砂～粗粒砂 φ10~50mm 粗礫多く混入 汚泥層

8. 10YR5-3 に似た黄褐色 無細粒砂～均粒砂

B-6

1. 10YR6-1 黒灰 無細粒砂～粗粒砂 (耕作土)
2. 10YR6-1 黒灰 無細粒砂～シルト しまった粘質土 上部にマンガン斑
3. 10YR6-1 黒灰 無細粒砂～粗粒砂 しまった粘質土 上部に鉄分沈着
4. 10YR6-6 明黃褐 無細粒砂～粗粒砂 しまる黄褐色シルト φ2~5mm 細礫很少 入る
5. 10YR6-1 黒灰 中粒砂～無細粒砂 よわい粘質砂質 マンガン斑
6. 10YR6-6 明黃褐 無細粒砂～粗粒砂 4層と同じ
7. 10YR6-1 黒灰 (~7.1 黑灰) 中粒砂～無細粒砂 固い粘質
8. 4層と同じ 若干7層と混じる
9. 10YR5-1 黒灰 (~6.1 黒灰) 中粒砂～粗粒砂 固い粘質 少量のマンガン斑少有
10. 10YR6-2 黄褐色 細粒砂～中粒砂 固い砂層灰化物含む やや黄褐色シルト混
11. 10YR5-3 に似た黄褐色 粗粒砂～粗粒砂 砂層 上部に鉄分沈着
12. 10YR6-1 黑灰と 10YR6-6 黄褐 ラミナ堆積
13. 100G6-1 黑灰 粗粒砂～中粒砂 ラミナ 植物遺体有
14. 100G5-1 黑灰 粗粒砂～中粒砂 ラミナ 灰化物含む 混水する

B-7

1. 10YR5-1 黑灰 無細粒砂～シルト (耕作土)
2. 10YR6-1 黑灰 (~5.1 黒灰) 無細粒砂～シルト 上部鉄分沈着する
3. 10YR7-4 に似た黄褐色 (~7.6 明黃褐) 無細粒砂～粗粒砂 マンガン斑層 固結
4. 10YR5-1 黑灰 無細粒砂～シルト やや硬くしまる粘質層 鉄分沈少量有
5. 10YR6-1 黑灰 無細粒砂～粗粒砂 やや硬 シルト混 やや粘質
6. 5GY7-1 明オリーブ灰 無細粒砂～粗粒砂 やや粘質 上部鉄分沈着硬い φ1~3mm 磨難 粗粒砂がブロック状に混入
7. 5層と同じ
8. 7.5GY6-1 黑灰 シルト～無細粒砂 粗粒砂混 喀砂 清水
9. 5GY7-1 明オリーブ灰 シルト～粘土 清水

B-8

1. 10YR4-3 に似た黄褐色 無細粒砂～シルト (耕作土)
2. 10YR5-3 に似た黄褐色 無細粒砂～シルト 黑灰シルト混
3. 10YR6-2 黑黃褐 無細粒砂～シルト～中粒砂
4. 10YR7-6 明黃褐 無細粒砂～中粒砂 φ2~20mm 粗礫混 黃床土
5. 7.5GY7-1 明オリーブ灰 シルト～中粒砂 固い粘質 陶磁器片出土
6. 25GY7-1 明オリーブ灰 中粒砂～シルト～粗粒砂 固い粘質
7. 7.5GY7-1 明緑灰 粗粒砂 鉄分多く沈着茶褐色

▶ 図 11 橋地区柱状図 2

とが期待された。

**基本土層** 当該地域の基本的な層所は、大きく以下の4層に大別することができる。

I 耕作土

II 黄橙色シルト層

III 黄褐色極細粒砂層

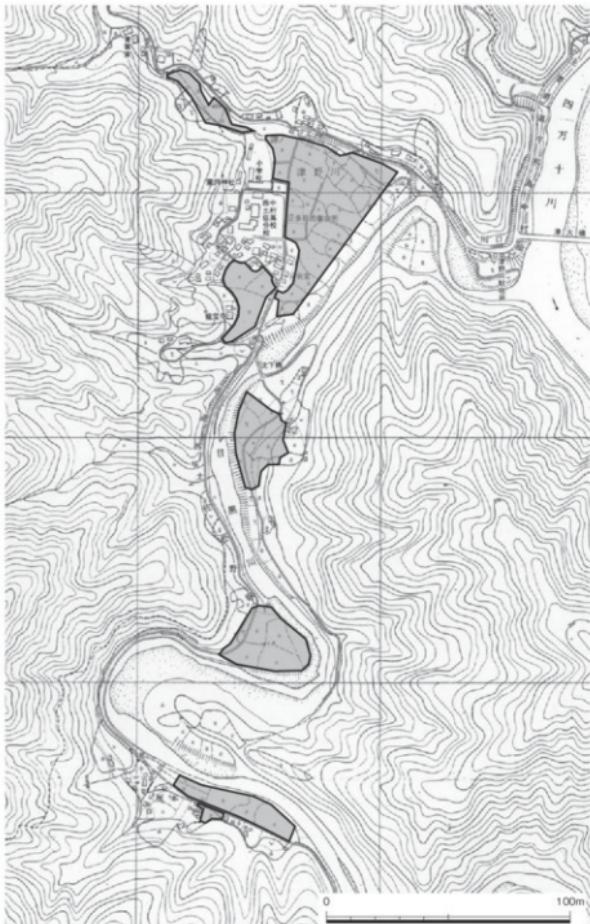
IV 褐色砂礫層

II層は強い粘質を呈する堆積で、一部のトレンチでは当該層から遺物及び遺構を確認している。

III層は比較的堅緻に堆積した砂層で、遺物・遺構を含まない基盤層である。IV層は調査範囲の北側で確認された河川の氾濫による礫層で、 $\phi 5 \sim 20\text{cm}$ 程の円礫、亜角礫が混在する。当該地域の旧地形は、3つの舌状にのびる丘陵先端部と数条の細い河川によって形成されており、谷地形は堆積が厚く、丘陵上は耕作土直下でIII層が確認される。

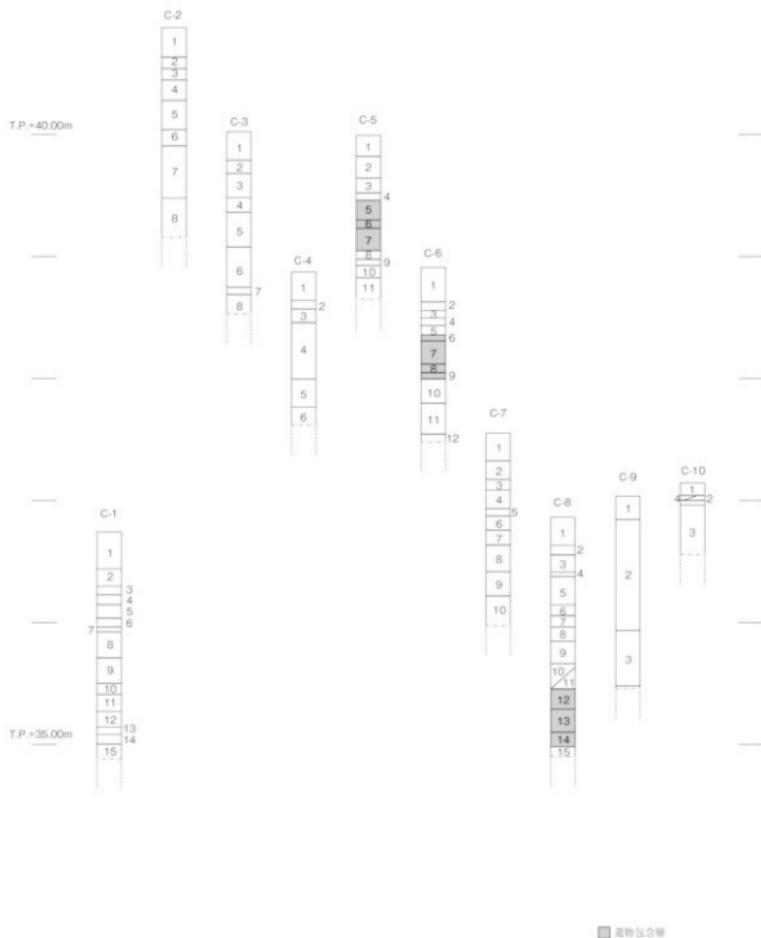
**調査の成果** 当該調査では合計19箇所のトレンチを設定し、調査を行った。全体として遺物の出土量は少なく、遺構の残存状況も希薄である。しかし、それらの残存状況から判明した事象もあり、トレンチごとにその状況を概観することとする。なお、以下では遺構及び遺物を確認した主なトレンチについて記述を行うこととする。

C-5では、現地表面から約0.6～1m下の5～8層から遺物を、10層上面で柱穴を1基確認した。柱穴は長軸約40cm、深さ30cmほどが残存している。包含層中からは、いずれも細片ではあるが、15世紀頃の所産と考えられる羽釜、鍋口縁端部、無文の青磁片等が出土する。柱穴の検出は、確認の容易な明確な基盤層まで掘削したため10層上面で確認しているが、遺構が存在する層位は遺物の



▶ 図12 津野川地区周辺位置図（1/2,000）





► 図 14 沖台地区柱状図 1

C-1

1. 10YB6/1 黒灰 粘土土
2. 10YB7/2 にふい黄橙 施細粒砂～粗粒砂
3. 10YB6/2 黑黄泥 施粗粒砂
4. 10YB7/1 黑灰 施粗粒砂～施粗粒砂
5. 10YB7/2 黑灰 施粗粒砂～施粗粒砂 マンガン含む
6. 10YB7/2 黄白 施粗粒砂～施粗粒砂 粒分を含みやや硬化する
7. 10YB7/1 黑灰 施粗粒砂～施粗粒砂 マンガン含む
8. 10YB7/2 黑灰 施粗粒砂～施粗粒砂 番面の上部に粒分が沈着
9. 10YB6/3 にふい黄橙 施粗粒砂～施粗粒砂
10. 10YB6/4 黑灰 粘土土
11. 10YB6/2 黑黄泥 粘土 地化物および揮発を少量含む
12. 10YB6/2 黑黄泥 粘土  $\phi 10\text{--}30\text{mm}$  の粗粒合む
13. 10YB6/2 黑黄泥 粘土 少量マンガンを含む
14. 10YK3/3 喀泥 粘土～施粗粒砂 少量マンガンを含む

C-2

1. 25Y5/1 黄灰 しまった粘質土  $\phi 2\text{--}5\text{mm}$  の粗粒混入 粘土土
2. 25Y6/1 黑灰 しまった粘質土  $\phi 2\text{--}5\text{mm}$  の粗粒混入 粘土土
3. 10YB4/2 黄黄泥 施粗粒砂 粘土土
4. 75GY5/1 黑灰 施粗粒砂～粗粒砂 固い粘質を呈し、しまりがない
5. 10YB6/6 黄白 施粗粒砂～中粒砂 しまりのない不安定な堆積
6. 10YB7/3 にふい黄橙 施粗粒砂～中粒砂 しまりのない不安定な堆積  $\phi 40\text{mm}$  施粗粒砂含む
7. 25Y7/6 黑灰 施粗粒砂～シルト  $\phi 60\text{--}80\text{mm}$  粒の堆積少量含む
8. 10YB6/6 明黄泥 施粗粒砂 粘土土 しまった粘質の堆積 基盤

C-3

1. 10YB6/1 黑灰 粘土土 下部に粒分が沈着する
2. 10YB5/1 黑灰 シルト～施粗粒砂 マンガン少量含む
3. 10YB2/1 黑泥 シルト～施粗粒砂 番面上面にマンガン少量含む
4. 10YB6/1 明黄泥 シルト～施粗粒砂
5. 10YB6/6 明黄泥 シルト～施粗粒砂
6. 10YB5/6 黄泥 シルト～施粗粒砂
7. 10YB7/6 明黄泥 粘土土
8. 10YB7/2 明黄泥 中粒砂 ややしまった堆積

C-4

1. 10YB6/1 黑灰 粘土土
2. 10YB6/2 黑黄泥 粘土土
3. 10YB7/4 にふい黄橙 粘土土 番面上面に硬化したマンガン斑が観察される
4. 25Y7/6 明黄泥 シルト～施粗粒砂 固い粘質を呈する
5. 25Y7/6 明黄泥 施粗粒砂～施粗粒砂 固い粘質を呈する
6. 10YB6/6 明黄泥 施粗粒砂～施粗粒砂 斑質を呈する  $\phi 5\text{cm}$  のシルトブロック (偽理?) 流入

C-5

1. 10YB6/1 黑灰 施粗粒砂～粗粒砂 しまった粘質の堆積 粘土土
2. 10YB6/2 黑黄泥 施粗粒砂～粗粒砂 しまった堆積 番中にプロック状の1層が混入 粘土土
3. 25Y7/2 喀泥 黄 施粗粒砂～シルト 黄橙ブロック少量混入 マンガン斑散見される
4. 25Y7/2 喀泥 黄 中粒砂～施粗粒砂 網質
5. 25Y7/2 喀泥 黄 施粗粒砂～シルト マンガン少量混入
6. 10YB5/4 にふい黄橙 施粗粒砂～シルト 10YB6/3 にふい黄橙施粗粒砂が少量混入
7. 25Y5/2 喀泥 黄 施粗粒砂  $\phi 2\text{mm}$  ほどの黄ブロック混入 地化物含む
8. 25Y5/2 喀泥 黄 シルト～施粗粒砂  $\phi 20\text{mm}$  程の黄シルトブロック混入 地化物含む
9. 25Y5/2 喀泥 黄  $\sim 10YB4/3$  にふい黄橙 中粒砂～施粗粒砂 斑質
10. 10YB3/3 喀泥 施粗粒砂～シルト 10YB3/3 喀泥施粗粒砂含む 基盤

C-6

1. 10YB7/1 黑灰 施粗粒砂～シルト 粘土土
2. 10YB7/6 明黄泥 施粗粒砂～シルト 粘土土
3. 25Y6/3 にふい黄 柔軟砂～シルト 粘土土
4. 25Y7/6 明黄泥 施粗粒砂～シルト 粘土土
5. 25Y7/3 浅黄 施粗粒砂～シルト 粘土土

6. 10YB7/6 明黄泥 施粗粒砂～シルト 床土 堆積なマンガン斑みられる

7. 25Y5/2 黑灰 施粗粒砂～粗粒砂 マンガン微量みられる
8. 25Y4/3 オリーブ鵝 施粗粒砂 しまった粘質の堆積 地化物含む 道樋は当該位置から存在する
9. 25Y3/2 黑泥 施粗粒砂 しまった粘質の堆積 地化物含む 道樋は当該位置から存在する
10. 25Y7/4 浅黄 シルト～施粗粒砂 25Y4/1 黄灰シルト～施粗粒砂プロック混入
11. 25Y7/4 浅黄 施粗粒砂～シルト 25Y4/1 黄灰シルト～施粗粒砂プロック微量混入
12. 25Y7/4 浅黄 均質な基盤

C-7

1. 25Y5/1 黄灰 施粗粒砂 粘土土 微量遺物含む
2. 25Y7/4 浅黄 施粗粒砂 床土 微量遺物含む
3. 25Y5/1 黄灰 シルト～施粗粒砂 粘土土 微量遺物含む
4. 25Y5/1 黄灰 施粗粒砂～シルト 粘土土と床土が混在 マンガン斑少量含む 微量遺物含む
5. 25Y5/1 黄灰 施粗粒砂～シルト マンガン斑少量含む 微量遺物含む
6. 25Y6/1 黄灰 施粗粒砂～粗粒砂 マンガン斑少量含む 微量遺物含む
7. 25Y6/1 黄灰 施粗粒砂 75Y4/3 喀泥施粗粒砂混入 しまった堆積 マンガン斑含む
8. 25Y5/1 黄灰 施粗粒砂～シルト 粘質 マンガン斑少量含む 微量遺物含む
9. 25Y5/3 黄灰 シルト質粘土～施粗粒砂
10. 25Y4/2 黑黄泥 中粒砂 流入 10YB6/2 黑黄泥中粒砂混入 粘質で中粒砂多く含む

C-8

1. 25Y5/1 黄灰 施粗粒砂 粘土土 微量遺物含む
2. 25Y6/3 にふい黄 施粗粒砂 床土 微量遺物含む
3. 25Y5/1 黄灰 施粗粒砂 粘土土 微量遺物含む
4. 25Y6/3 にふい黄 施粗粒砂 床土 微量遺物含む
5. 25Y5/2 喀泥 黄 施粗粒砂 粘土土と床土が混在 微量遺物含む
6. 25Y5/1 黄灰 施粗粒砂
7. 25Y5/1 黄灰 施粗粒砂 25Y6/3 にふい黄施粗粒砂が少量混入 しまった堆積 下部にマンガン斑、既往物含む
9. 25Y5/1 黄灰 施粗粒砂 地化物少量含む
10. 25Y5/1 黄灰 施粗粒砂 少量混合中粒砂含む
11. 25Y5/6 明黄泥 施粗粒砂～中粒砂 マンガン斑含む
12. 25Y5/1 黄灰 シルト～施粗粒砂 マンган斑含む 包含層
13. 25Y5/1 黄灰 シルト (ダントン施粗粒砂、中粒砂含む) マンガン斑含む 包含層
14. 25Y5/1 黄灰 施粗粒砂 地化物少量含む 包含層
15. 25Y4/4 オリーブ鵝 施粗粒砂～中粒砂 しまった堆積 マンガン斑含む

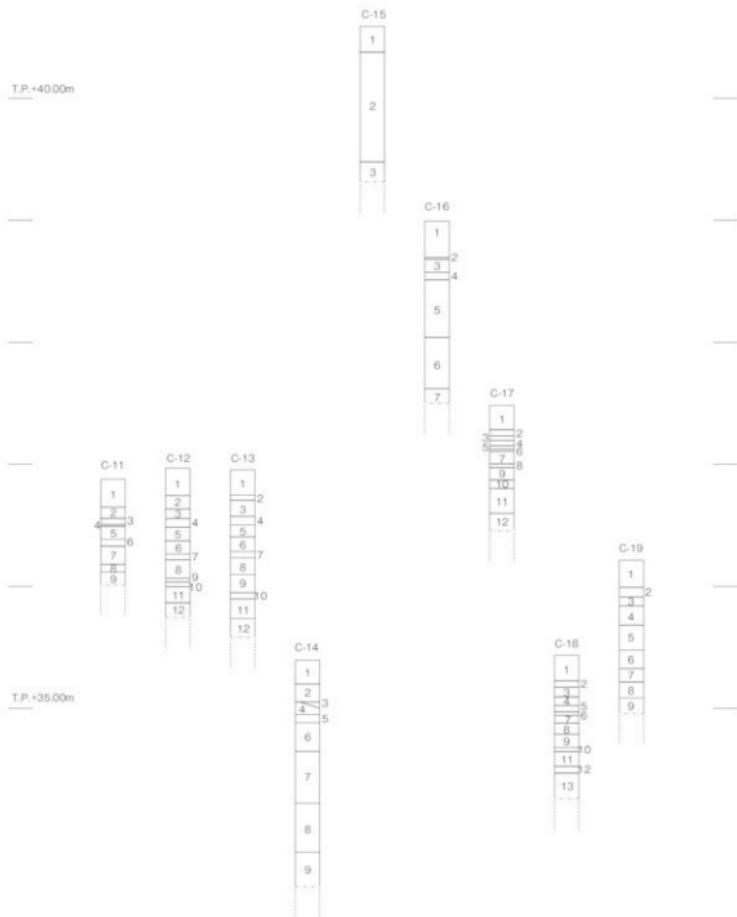
C-9

1. 25Y6/1 黄灰 施粗粒砂～粗粒砂 粘土土 マンガン斑含む 番面に地化物含む
2. 25Y7/4 浅黄  $\sim 6\text{--}7$  にふい黄シルト～施粗粒砂 粘質 基盤層 片状
3. 25Y5/4 黄灰  $\sim 5\text{--}6$  黄シルト～粘土土 粘質の堆積
4. 25Y5/6 黄泥  $\sim 4\text{--}5$  オリーブ鵝 施粗粒砂～中粒砂 斑質

C-10

1. 25Y6/1 黄灰 施粗粒砂～粗粒砂 基盤 下部に床土が混入しする
2. 10YB6/2 明黄泥 シルト～粘土土 中粒砂少量混入 マンガン斑多く、観察上面に地化物、マンガン斑多くみられる
3. 10YB6/2 明黄泥 シルト～粘土土 粘質 基盤層
4. 10YB5/1 黑灰 施粗粒砂～粗粒砂 マンガン斑混入 固い粘質の堆積

▶ 図 15 沖台地区柱状図 2



► 図 16 沖台地区柱状図3

C-11

- 10YR6/1 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 精作土 微量遺物含む
2. 10YR6/6 明黄鶴 施細粒砂 床土 微量遺物含む
3. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂 マンガン混含む 精作土 微量遺物含む
4. 10YR6/6 明黄鶴 施細粒砂に 10YR6/1 黄灰施細粒砂が混入、床土
5. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂 マンガン混含む 精作土
6. 10YR6/6 明黄鶴 施細粒砂 磨擦面上面に 10YR6/1 黄灰施細粒砂が混入、床土
7. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂 磨擦面上面に 10YR4/2 黄灰施細粒砂～シルトが混入
8. 10YR5/6 明黄鶴 シルト 塗壁 黒鐵が多くみられる
9. 10YR6/6 明黄鶴 シルト 質細粒砂 精作の場所 床灰施細粒砂が混入しやく灰を帯びる C-9, C-10 で確認している基盤層と同一

C-12

1. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂 精作土 微量遺物含む
2. 2.5Y7/6 明黄鶴 施細粒砂 精粒砂 床土
3. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂 精作土
4. 2.5Y7/6 明黄鶴 施細粒砂 下部は 10YR4/4 極細粒砂 C-11 の 7 層に対応する
5. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂
6. 2.5Y7/6 明黄鶴 施細粒砂 床土
7. 10YR3/3 に少く 黄灰 極細粒砂～粗粒砂
8. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂～シルト
9. 10YR6/6 明黄鶴 施細粒砂 2.5Y7/6 明黄灰施細粒砂混入 黑鐵 鉄分が沈着してマンガン鉄が観察される
10. 2.5Y6/2 黄灰 極細粒砂～粗粒砂
11. 10YR4/4 楠 シルト質細粒砂 磨擦面上面に鉄分が沈着 黑鐵で削い粘質を呈する
12. 10YR6/6 明黄鶴 シルト質細粒砂 C-11 の 9 層に対応 一般的な基盤層

C-13

1. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂 精作土
2. 2.5Y7/6 明黄鶴 施細粒砂 質化物含む 床土
3. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂 精作土
4. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂と 2.5Y7/6 明黄灰施細粒砂が混在、精土と床土の混合層
5. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂 精作土
6. 2.5Y7/6 明黄鶴 施細粒砂 床土
7. 10YR3/3 に少く 黄灰 シルト～粘土 少量極細粒砂含む 黑質の塗壁
8. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂～シルト
9. 10YR6/2 黄灰 シルト質細粒砂 磨擦面上面に黒鐵なマンガン鉄が混入する
10. 10YR4/1 楠灰 極細粒砂～粗粒砂 壁面の塗壁 マンガン混含む C-12 11 磨擦面上面に対応
11. 10YR4/4 楠 シルト質細粒砂 12. 10YR6/6 明黄鶴 粘土 C-11 9 層に対応 一般的な基盤層

C-14

1. 2.5Y7/1 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 精作土
2. 2.5Y7/6 明黄鶴 極細粒砂～粗粒砂 床土
3. 10YR4/3 に少く 黄灰 極細粒砂～シルト
4. 2.5Y6/1 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 精作土
5. 2.5Y7/6 明黄鶴 施細粒砂～粗粒砂 床土、少量マンガン斑点含む
6. 2.5Y7/1 黄灰 シルト～粗粒砂 壁面の塗壁 マンガン混含む 精作土
7. 2.5Y7/6 黄灰 シルト質細粒砂に 2.5Y7/6 明黄灰施細粒砂が混入する
8. 2.5Y5/2 黄灰砂 粘土 2.5Y7/6 明黄灰施細粒砂混入 強い粘質を呈する均質な粘土層
9. 2.5Y7/1 黄灰 粘土～極細粒砂 強い粘質を呈する 2.5Y7/6 明黄灰シルトブロック（約 5~10mm）少量混入 質化物含む 壁面があくまで削さない 当該層に遺物は含まれず、凡そ基盤層として認識して良いのではないかと思われる

C-15

1. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂～シルト 精作土
2. 10YR5/3 に少く 黄灰 中粒砂～粗粒 磨擦 遷土
3. 2.5Y7/4 浅黄 粘土 均質で強い粘質を呈する

C-16

1. 10YR6/1 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 精作土
2. 2.5Y7/6 明黄鶴 極細粒砂 床土
3. 10YR6/1 浅黄 極細粒砂～粗粒砂 精作土

4. 2.5Y7/6 明黄鶴 細粒砂～粗粒砂 少量細粒混入 床土

5. 10YR5/4 に少く 黄灰 シルト～粘土 φ10~15mm 磨擦、φ30~40mm 砂が層面上部に混入

6. 2.5Y7/4 浅黄 シルト～粘土 5 層との層界面に φ30~40cm 砂が混入

7. 2.5Y7/4 に少く 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 しまった堆積 質化物含む 精作土

C-17

1. 2.5Y5/1 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 しまった堆積 質化物含む 精作土
2. 2.5Y5/6 明黄鶴 施細粒砂～粗粒砂 しまった堆積 若干シルト混入 床土
3. 2.5Y5/1 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 しまった堆積 質化物含む 精作土
4. 2.5Y6/6 明黄鶴 施細粒砂～粗粒砂 しまった堆積 若干シルト混入 床土
5. 2.5Y5/1 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 しまった堆積 質化物含む 精作土
6. 2.5Y6/6 明黄鶴 施細粒砂～粗粒砂 しまった堆積 若干シルト混入 床土
7. 2.5Y5/1 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 しまった堆積 質化物含む 精作土
8. 2.5Y6/6 明黄鶴 施細粒砂～粗粒砂 しまった堆積 若干シルト混入 床土
9. 2.5Y5/1 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 しまった堆積 質化物含む 精作土
10. 10YR4/1 黄灰 施細粒砂に 10YR4/3 に少く 黄灰施細粒砂が混入、やや土壌化したものか?
11. 2.5Y5/6 明黄鶴 シルト～粘土 少量細粒砂混じる φ10~15mm 磨擦 少量混入 10YR4/4 極細粒砂～粗粒砂～シルト混入
12. 2.5Y6/6 明黄鶴 シルト質粘土 φ15~20mm ほどの堆積少量含む 一般的な基盤層

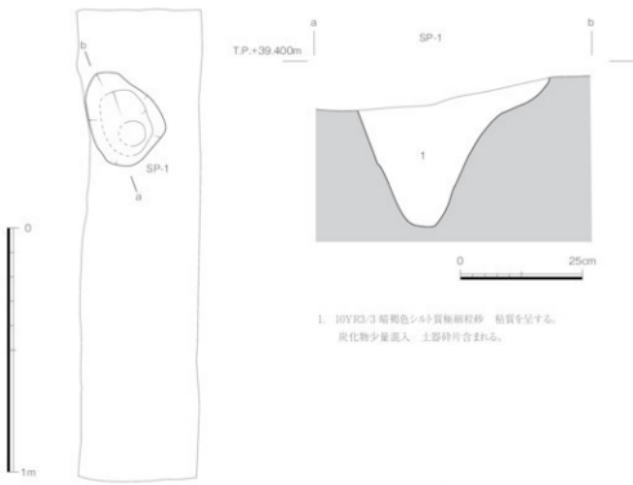
C-18

1. 2.5Y6/1 黄灰 極細粒砂～シルト 精作土
2. 2.5Y7/6 明黄鶴 施細粒砂～粗粒砂 φ1~2mm の細粒混入 床土
3. 2.5Y5/1 黄灰 細粒砂～シルト 質化物有り 精作土
4. 2.5Y6/6 明黄鶴 施細粒砂～粗粒砂 床土
5. 2.5Y7/2 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 精作土
6. 2.5Y7/6 明黄鶴 施細粒砂～粗粒砂 床土
7. 2.5Y5/1 黄灰 極細粒砂～シルト 質化物少量混入 精作土
8. 2.5Y6/6 明黄鶴 施細粒砂～粗粒砂 φ2~3mm の細粒混入 質化物少量混入 床土
9. 2.5Y6/1 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 φ20mm の粗粒混入 床土
10. 2.5Y7/6 明黄鶴 施細粒砂～粗粒砂 2.5Y7/6 1 黄灰施細粒砂混入 φ2~4mm 細粒混入 床土
11. 10YR3/3 楠灰 シルト～粗粒砂 φ20cm 磨擦 φ2~15mm 半角隕少量混入
12. 10YR4/3 に少く 黄灰 シルト～粗粒砂 固い粘質 φ10~100mm 磨擦混入
13. 10YR3/1 黑粘 粘壁 φ3~10mm に 20cm 程のものも混入

C-19

1. 2.5Y6/1 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 精作土
2. 2.5Y7/6 明黄鶴 施細粒砂～粗粒砂 磨擦面下部にマンガン斑点有り 床土
3. 2.5Y6/1 黄灰 細粒砂～粗粒砂 2 層ブロック状（φ2~3mm）に混入 マンガン少量混入
4. 2.5Y7/1 黄灰 極細粒砂～粗粒砂 少量シルト混入 マンガン斑点少量混入
5. 2.5Y7/1 黄灰 シルト質細粒砂 磨擦 固い粘質を呈する
6. 2.5Y6/2 黄灰 シルト質細粒砂 質化物含む φ2~3mm の黄鶴細粒砂～粗粒砂～粗粒砂、シルト質細粒砂～粗粒砂～粗粒砂混入 φ3mm の粗粒混入
7. 2.5Y7/1 黄灰 シルト質粘土～粗粒砂 質化物少量含む φ2~3mm の黄鶴細粒砂～粗粒砂混入
8. 2.5Y4/2 黄灰 2 層 黃灰 シルト質粘土～粗粒砂 質化物少量含む φ2~3mm の黄鶴細粒砂～粗粒砂混入
9. 10YR4/1 黄灰 シルト質細粒砂 φ2~15mm 磨擦多く含む 粘質の埋層 φ10~20cm 砂混入
10. 10YR4/1 黄灰 粗粒砂～粗粒 河川堆積による埋層

▶ 図 17 沖台地区柱状図 4



▶図18 C-5平面図（1/20, 1/10）

出土する5～8層中と考えてよいと思われる。

C-6では、現地表から0.6m程掘削すると、旧耕作土下から包含層が確認される。包含層は厚さ約30cmが堆積しており、層中に小径な柱穴を1基確認した。当該トレーナーの7～8層からは15世紀頃の所産と考えられる瓦器片、白磁皿等の細片が出土している。C-5とやや高低差はあるが、対応する層位で遺物、遺構を確認しているものと考えられ、周辺には15世紀代の遺構が残存するものと考えられる。

C-9では耕土直下、現地表から20cmほど下で柱穴1基を確認した。周辺にトレーナー幅を広げて確認したが、その他の遺構は確認されず、遺構密度は低いものと考えられる。耕土からは四方櫛文の施された椀、内野山産の皿等、17世紀後半～18世紀にかけての遺物が確認されており、出土した層位から考えて、遺構の時期を特定するには至らないものの、下層に包含層等が確認されないことから概ね近い時期の遺構と考えてよいのではないかと思われる。

C-19では耕土を除去すると河川による氾濫堆積が丘陵の堆積を削って堆積した状況が確認できる。

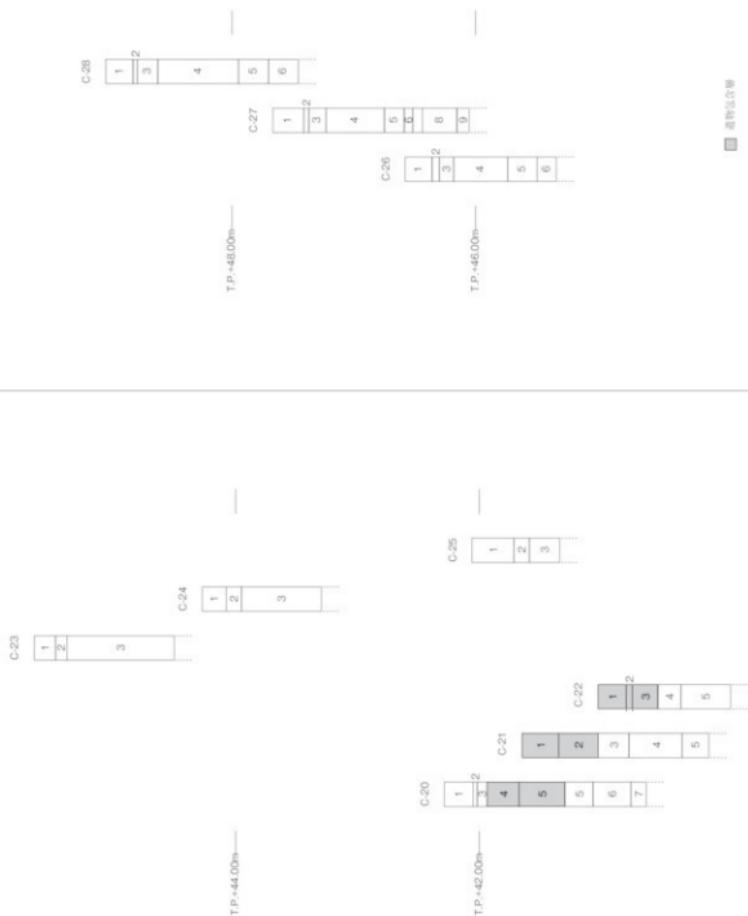
遺物等は耕作土より細片が確認されるが、明確な包含層は確認できない。C-18付近からこのような河川氾濫による堆積が確認されており、C-19の北側を流れる小河川の氾濫による地形の変更があったものと想定される。したがって、C-19周辺では包含層等が存在していたとしても現状でそれらを確認できる地点は限られるものと考えられる。

沖合地区の調査では、中世および近世の遺物及び遺構をいくつかのトレーナーで確認した。遺構、遺物の分布は旧谷部を除く丘陵上及びその斜面域に分布するものと思われ、その密度は希薄なものであろうと思われる。図化可能な遺物は採取し得ていないが、細片の観察から出土する遺物、遺構の時期は15世紀代と17世紀後半から18世紀にかけての概ね2時期が想定される。なお、北側丘陵上に所在する辰巳城跡は16世紀頃の所産と考えられており、今次調査では関連する時期の遺物・遺構は確認できなかった。

しかし、今回の試掘確認調査によって四角田遺跡の周辺には中近世の遺構及び遺物が既知の範囲を



▶ 図 19 ホバゴ谷地区トレント配置図



► 図 20 ホバゴ谷地区柱状図 1



図21 杏バヨ谷地区柱状図2

超えて広がることが明らかとなった。この結果をうけて高知県教育委員会と協議を行った結果、平成19年5月に四角田遺跡の範囲を拡大修正した。

## 2 ホバゴ谷地区（図19～図21）

**ホバゴ谷地区の概要** ホバゴ谷地区は目黒川の支流にある津野川川の河岸と谷部に広がる水田域である。目黒川支流の津野川川の谷部と河岸を耕作地として利用している。谷部は埋め立てや盛り土によって水田城を広げており、河岸の丘陵部では奥行きの狭い畑地が営まれている。

**調査の成果** 当該河川の左岸には江戸時代に番所役を務めた庄屋屋敷跡が残存しており（平成20年11月現在）、かつて愛媛県へと抜ける要所であったことが知られている。C-20～C-22はこの庄屋屋敷跡の下側にあたり、屋敷に関連した施設や遺物が出土することが期待された。

当該地区では、丘陵斜面部の堆積は耕作土直下で基盤層に到達する。谷部はグライ化した砂層、粘土層、礫層が互層に堆積している。

ホバゴ谷地区ではC-20～C-22で中近世期の遺物が確認された。いずれも細片であり、原位置を保った出土状況ではないと考えられる。出土した場所から勘案して上述した屋敷跡等からの廃棄物である可能性もある。

谷の平坦部では、還元作用によってグライ化の進行した粘質の堆積が顕著で、河川の氾濫等による亜円礫が多く混入し、遺物・遺構は見られない。

## 3 学校前・寺の前地区（図22～図25）

**学校前地区** 当該地区は県道と津野川小学校の間に残る水田域である。学校前地区にはC-29～C-32の4ヵ所のトレンチを設定した。

いずれのトレンチにおいても耕作土直下で人工的な礫とシルトの混合層が確認されたのち、亜円礫を含む基盤層に到達する。これらの調査結果から、学校前地区は以前に耕作地の整備が行われたものと考えられる。また、道路敷設時にその両側は削平をうけており、当該地点に埋蔵文化財は残存していないものと考えられる。

**寺の前地区** 寺の前地区は県道の西側にあたり山側から下る谷地形を利用して水田城を形成するエリアである。河川に向かって張り出す南北2つの丘陵とその間に形成される谷地形によって構成されている。今回調査の対象としたのは、谷部と南側の丘陵斜面部である。C-33～C-37までは谷部、C-38～C-43までは斜面部に設定し、堆積状況及び埋蔵文化財の有無を確認した。

北側の丘陵は北に向かって広がっており、津野川地区の居住域は概ねこの丘陵斜面に営まれている。これに対し、南側の丘陵先端部には龍宝寺が建立されている。

2つの丘陵上では堆積が安定するが、谷部では耕作に伴う盛り土、整地を経て現在の水田が形成されている。このため、谷部では浅い位置で礫と粘土の混合する盛り土が検出される。

谷部の水田は現在でも「湿田」と地元で認知されており、水分を多く含んで水はけが悪い。C-33やC-36でみられる堆積は典型的な谷地形の堆積といえる。

これに比してC-34、C-35、C-37は集落の形成される丘陵の南端にあたり、堆積が安定し、耕作土直下の堆積には近世期頃の遺物が混じることもある。

谷地形の埋め立ては近年のことであり、遺構・遺物が検出される可能性は低いものと思われる。

寺の前地区で遺物を確認したのは、谷部のC-34、C-37、丘陵斜面部のC-38、C-40である。

確認された遺物は陶磁器の細片であり、明確な時期の判別は困難であるが、器形等から概ね中世～近世の所産であろうと考えられる。

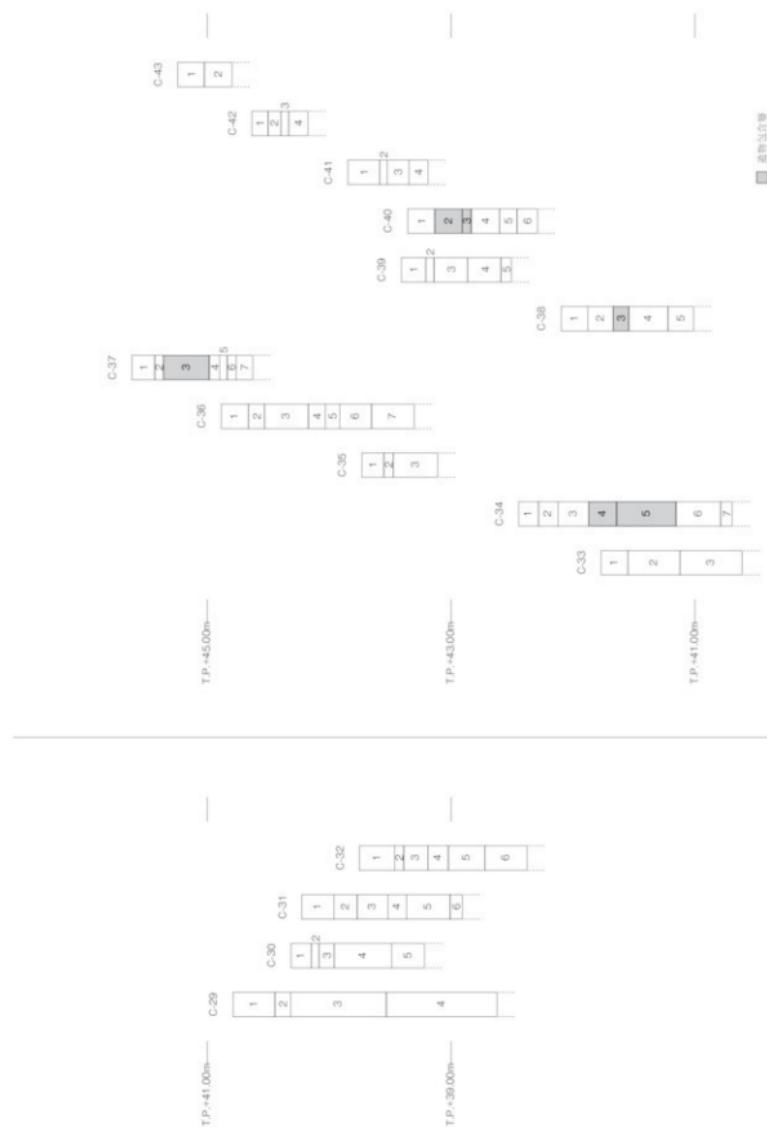
また、C-38のみで土坑を確認している。深さ15cm程が残存する円形の土坑で、水田に伴う石垣の



▶ 図 22 学校前地区トレンチ配置図



▶ 図 23 寺の前地区トレーンチ配置図

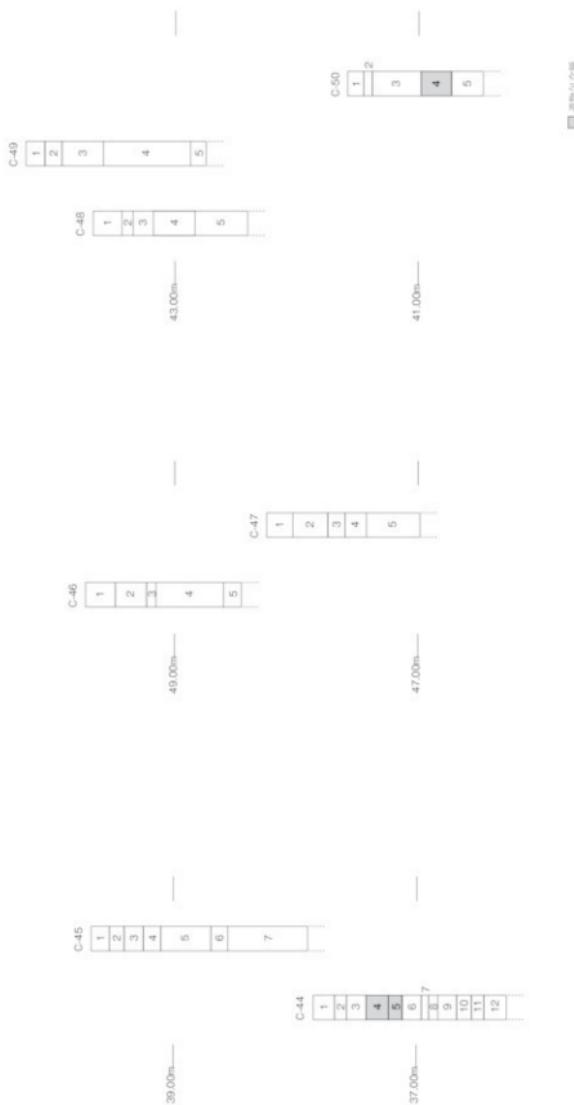


► 図 24 学校前・寺の前地区柱状図 1

図25 学校前・寺の前地区柱状図2



▶ 図 26 ウリウ子地区トレーン配置図



► 図 27 ウリウ子地区柱状図 1

C-44

1. 10Y86.1 開区 梅田砂砂 創作土。

2. 10Y87.3に2mの黄砂 梅田砂砂シルト 常土。

3. 10Y86.2灰開区 細砂砂砂シルト 常土。

4. 10Y87.3に2mの黄砂 梅田砂砂シルト 砂質砂層上部に糞分が混入する。土。

5. 10Y86.3シルト～細砂層は10Y87.2に2mの黄砂砂層が埋入する。

6. 10Y85.1 開区 梅田砂砂シルト 地下1mの糞分層が埋入する。

7. 10Y85.1 開区 梅田砂砂シルト 地下1mの糞分層。

8. 10Y85.1 開区 梅田砂砂シルト 地下1mの糞分層。

9. 25GYチャーブ灰、シルトと8%が10%ほど混入する。グライ化が進行する。

10. 25GYチャーブ灰、シルト～粘土、粘質のグリーン層。

11. 25GYチャーブ灰、シルト～粘土層が10mm、テラタイ化が進行する。

12. 25GYチャーブ灰、シルト～粘土、粘質のグリーン層

C-48

1. 10Y86.4に2mの黄砂 梅田砂砂シルト (耕作土)

2. 10Y86.1 開区 梅田砂砂シルト φ5~10mm 粗粒分 しまった糞質

3. 10Y86.4に2mの黄砂 梅田砂砂シルト 水分多く糞質の層 φ5~10mm 粗粒 分合む

4. 10GAT1 開区 粘砂砂～粗粒砂砂 シルト 層 粗粒の糞質 φ10mm ブロック化

5. 10G7.1 開区 粘砂砂～粗粒砂砂 粗粒層

C-49

1. 10Y85.4に2mの黄砂 梅田砂砂シルト (耕作土)

2. 25Y7.1 開区 梅田砂砂シルト φ5~20mm 粗粒分合む しまった糞質

3. 25Y7.1 開区 土に20~30mm 粗粒分合む 粗粒の糞質

4. 10Y86.1 開区 粗粒シルト φ10~40mm 粗粒多く含む 水分多い糞質

5. 25G5.1 開区 粗粒シルト φ10~15mm 粗粒分合む 粗糞質

C-50

1. 25Y4.25 開区 梅田砂砂シルト (耕作土)

2. 25Y7.1 開区 梅田砂砂シルト しまった糞質 (土)

3. 25Y7.1 開区 梅田砂砂シルト φ200mm 粗粒多く含む入る

4. 25Y7.5 開区 梅田砂砂シルト φ20~30mm 少量進入 (内

野田川の堤防下) 3

5. 25G6.1 開区 7-71 開区 シルト φ20mm 粗粒分量高

C-45

1. 10Y86.4 開区 梅田砂砂 創作土。

2. 25G6.0 開区 梅田砂砂シルト 糞分多く糞質の層高

3. 10Y86.4 開区 梅田砂砂φ26.4cmシルトを混入φ5~20mm の粗粒分量高

4. 10Y86.4 開区 梅田砂砂～粗粒砂砂 φ5~20mm の多く含む糞質。

5. 25G6.0 開区 シルト～粗粒砂砂 低い地の層高。

6. 30Y86.6 開区 梅田砂砂～粗粒砂砂 (10~40mm)の層高約φ10~25mm の重複

が進する。

7. 20Y87.0 開区 梅田砂砂シルト 少量糞分が混入φ20~25mm の重

複層化する。糞質の層高。

8. 30Y85.5 開区 シルト～梅田砂砂 φ10~25mm 層高合む。少量φ30cm ほどの層が含まれる。

C-46

1. 10Y83.2 開区 シルト～粘土 (耕作土)

2. 30G6.1 開区 シルト 粘砂砂～中粒砂砂 粗糞質

3. 34.0 開区 梅田砂砂シルト 粗糞質 φ90~100mm 粗粒

4. 30Y86.6 開区 シルト～粘砂砂 粗糞質 粗糞質

5. 10G7.1 開区 粘砂砂～粗粒砂砂 粗糞質 粗糞質

C-47

1. 10Y83.2 開区 シルト～粘土 (耕作土)

2. 30G6.1 開区 シルト 粘砂砂～中粒砂砂 粗糞質

3. 34.0 開区 梅田砂砂シルト 粗糞質 粗糞質

4. 30G6.1 開区 シルト 粘砂砂～粗粒砂砂 粗糞質

5. 10G7.1 開区 粘砂砂～粗粒砂砂 粗糞質

▶ 図 28 ウリウ子地区柱状図2

裏込めによって一部が削平を受けている。石垣に先行する時期の遺構であるが、遺物を伴わず時期の判別は困難である。

寺の前地区的調査では、南北の丘陵裾部で中近世の所産と考えられる微量の遺物を採取した他、時期不明の遺構を1基確認した。全体として時期の明確な遺物や遺構に乏しく、出土遺物も細片を主としたもので出土密度も低い。予想された集落域の広がりは、北側の丘陵域に広がるものと考えられ、現在の集落域とほぼ重なるものと推測される。

#### 4 ウリウ子地区（図26～図28）

ウリウ子地区ではC-44、50で遺物を確認している。C-44では黄橙色極細粒砂層で、C-50では耕土下の黄灰色極細粒砂（シルト）層にて近世期の陶器片等が出土する。

ウリウ子地区は丘陵から目黒川へむかう斜度のきつい丘陵斜面であり、やや平坦面であるC-44、50を除いては湧水も著しくこぶし大の亜角礫や擬礫の混入する粗い堆積が多く見られる。遺構の分布も確認できておらず、各トレンチの状況からも埋蔵文化財の残存する可能性は低いものと考えられる。

#### 5 津野川トイクラ地区（図29～図31）

**トイクラ地区の概要** 津野川トイクラ地区は目黒川左岸の丘陵が張り出し、河川が蛇行する屈曲点に立地している。丘陵の先端は河川にむかって緩やかに傾斜して平坦面を形成し、現在は水田としての利用が継続している。なお、現地は概ね旧来の地形を利用して水田利用を行っているものと考えられるが、石垣の積み方に差異が認められることなどから、水田の整備はこれまでに数度にわたって行われており、これに伴ってある程度の地形の変更があったことが推測される。とくに、C-54、C-59付近は道路の敷設に伴って盛り土による整形が行われている可能性が高い。

**基本層序** 基本的な層序は、以下の7層に大別できる。

このうちII、VI、VII層で遺物が確認される。遺物を出土する層位のうち、II層には中～近世の所産と考えられる遺物が、VI、VII層には弥生時代の遺物が含まれる。

- I 耕土
- II 灰褐色極細粒砂層
- III 黄色極細粒砂～シルト層
- IV 橙色ブロック層
- V 灰色砂層
- VI 赤褐色シルト層
- VII 赤灰褐色シルト層

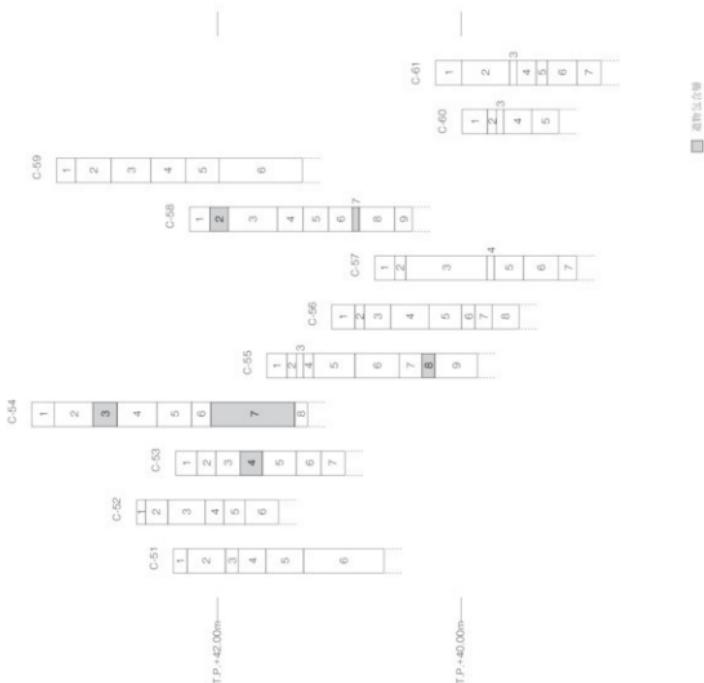
なお、各トレンチにおける堆積状況は図30で整理した。図30においてはトレンチごとにアラビア数字で個別の層番号を付しており、各番号は上記の大別層序とは無関係である。

また、南側の多くのトレンチでは洪水による均質な砂層（上記V層）の堆積が確認されており、各トレンチの層所を対応させると弥生時代以降に洪水が発生したものと考えられる。今回の調査で埋蔵文化財の所在を確認したトレンチは、C-53～55、58の4箇所であり、埋蔵文化財の分布は南側に偏っている（図29）。今回図化可能な遺物は採取できなかったが、出土した遺物の観察から、耕土直下付近に分布する中世～近世期と、現地表面から約1.5m下に存在する弥生時代中期末～後期初頭頃の二時期の遺跡の存在が想定される。

C-53では、黄色極細粒砂～シルト層上面で柱穴と思われる遺構を1基確認した。時期を示唆する遺物が出土していないため、時代の判別は困難であるが、他トレンチとの層序の対応関係から中世～近世期の範疇に含まれる遺構と推測される。なお、当該調査において確認し得た遺構はこの柱穴のみで



► 図 29 トイクラ地区トレーンチ配置図

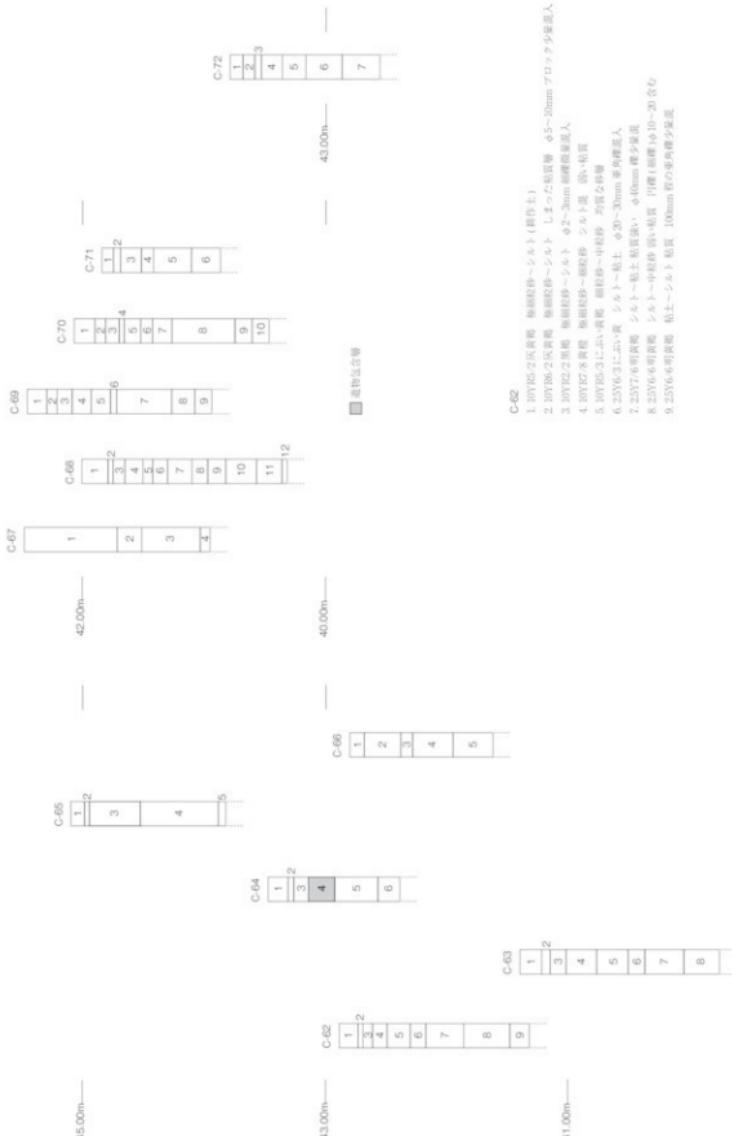


► 図 30 トイクラ地区柱状図 1





▶ 図 32 坂本地区トレンチ配置図



## C-63

1. 25Y5/1 黄灰 地盤粒径～シルト (耕作土)
2. 25Y7/6 明黄褐 地盤粒径～シルト しまった堆積 マンガン混在む 床土
3. 25Y5/4 黄褐 中粒径～粗粒径 均質な砂層
4. 25Y5/4 黄褐 中粒径～粗粒径 砂層にφ80～100mm 組織混
5. 25Y5/4 黄褐 シルト～粗粒粒径 削い粘質の砂層
6. 25Y5/2 黃灰 黃 中粒径～粗粒粒径 砂層 本分少量含む
7. 25Y6/3 にふい黄 黃 シルト～中粒径、粗粒径 粗い粒径を含む粘質層 剥分 程少混合
8. 10YR5/6 黄褐 粗粒砂～シルト 固い粘質の砂層

## C-64

1. 10YR4/1 黄灰 地盤粒径～シルト (耕作土)
2. 10YR6/1 黄灰 地盤粒径～シルト 床土～耕作土
3. 10YR4/3 にふい黄褐 中粒径～粗粒径 φ10～50mm 亜角礫多く混入、ザツツイの織層
4. 10YR4/2 黄灰 黃 シルト～地盤粒径～粗粒砂 (地盤粒砂かも) 混入 粘質の砂層
5. 10YR6/2 黄灰 黃 シルト～地盤粒径～粗粒砂 (地盤粒砂かも) 混入量増える 下方にφ100mm 繪混入 ザツツイの織層
6. 25Y7/6 明黄褐 シルト～粗粒砂 粘質の強い堆積

## C-65

1. 10YR5/1 黄灰 地盤粒径～シルト (耕作土)
2. 10YR2/1 黄 地盤粒径～シルト 上部に鉱分充て マンガン混在む床土
3. 7.5Y6/6 棕 粒径～細粒砂 削い粘質 φ100～200mm 繪混入
4. 10YR6/3 にふい黄褐 (6.6明黄褐) 地盤粒径～粗粒砂にシルト混 固い粘質の砂層 φ100～300mm 繪混入
5. 25Y7/1 黄白 地盤粒径～シルト 剥分有 系糸層

## C-66

1. 10YR4/1 黄灰 地盤粒径～シルト (耕作土)
2. 10YR4/4 黄褐 粗粒砂～粗粒砂 φ100～150mm 程合む
3. 10YR6/2 黄灰褐 地盤粒径～シルト 若干V含む 削い粘質の砂層
4. 10YR6/6 明黄褐 シルト (～地盤粒砂) 上部に地盤粒砂 (硬い) がが多く分布する
5. 10YR6/2 黄灰 黃 シルト (～地盤粒砂) 粘質の砂織層 φ10～30mm 程100mm 亜角礫合む

## C-67

1. 7.5Y5/1 黄 シルト (～地盤粒砂) 本分多く含む 旧耕作土 削い粘質
2. N5.0中灰 黏土～シルト) 若干V混、透水質 粘質
3. 7.5Y4/1 黄褐 地盤粒径～粗粒砂 ～中粒径 マンガン混在
4. 5BGH/1 明青灰 地盤粒径～粗粒砂 (朱色)

## C-68

1. 10YR5/1 黄灰 シルト～粗粒砂 (耕作土)
2. 10YR6/6 明黄褐 シルト～粗粒砂 下に混合する床土
3. 10YR5/1 黄灰 地盤粒径 マンガン混在量混 旧耕作土
4. 10YR6/6 明黄褐 地盤粒径～粗粒砂～中粒径 マンガン混在 床土
5. 10YR6/1 黄灰 中粒砂～粗粒砂 しまった砂層
6. 10YR6/1 黄灰 粗粒砂～中粒砂 しまった砂層
7. 10YR6/1 黄白 無機粒砂～粗粒砂 下に地盤粒砂合 φ20～30mm 程合む 6層との界面で (V粗粒砂) 多くある
8. 10YR6/6 明黄褐 地盤粒径～シルト～粗粒砂 (朱色)
9. 10YR6/1 黄灰 地盤粒径～粗粒砂 若干V粗粒砂がφ50mm 程のブロック状に入る
10. 10YR6/1 黄灰と6.6明黄褐 地盤粒砂が混合する φ10mm 程合む
11. 10YR5/2 黄灰褐 シルト～地盤粒砂 粘質 若干粗粒砂
12. 25Y8/6 黄 粘土 (シルト) 強い粘質 黄のベース層

## C-69

1. 10YR4/1 黄灰 地盤粒径～シルト (耕作土)
2. 10YR7/6 明黄褐 地盤粒径～シルト しまった粘質 φ10～20mm 程織ア ロック層
3. 10YR6/3 にふい黄褐 地盤粒径～シルト 耕作土と床土の混合層
4. 10YR6/1 黄灰 粗粒砂 均質な砂層 洗水堆積と思われる

5. 10YR5/3 にふい黄褐 地盤粒径～シルト φ2～5mm 程織混
6. 7.5Y6/6 棕 粗粒砂～シルト 破壊した堆積 鉄分+マンガン混 鋼板
7. 10YR6/6 明黄褐 シルト～粘土(粘土) 若干粗粒砂 粘質 程ブロック (φ50～100 mm) 程多量 程少量 程穴有 遺物なし
8. 25Y7/4 浅黃 シルト (～無機粒砂) 粘質 φ50～150mm 程混
9. 25Y7/4 浅黃 粘土 (シルト) 少量粗粒砂 強い粘質 ベース

## C-70

1. 10YR4/1 黄灰 シルト～無機粒砂 (耕作土)
2. 10YR6/6 明黄褐 地盤粒径～シルト しまった砂層 床土 上部がグライ化する
3. 10YR6/1 黄灰褐 地盤粒砂 少量混入 (φ5～10mm)
4. 10YR6/6 明黄褐 地盤粒砂～シルト～粗粒砂 床土
5. 10YR6/2 黄灰褐 中粒砂～粗粒砂 若干無機粒砂混入 程層
6. 10YR6/1 黄灰 地盤粒砂～中粒砂 少量シルト混 固い粘質 上部に地盤粒砂 多く混入
8. 25Y7/6 明黄褐 シルト～粘土 若干中粒砂、粗粒砂含む やや固い粘質の堆積
9. 25Y7/6 明黄褐 粘土～シルト 強い粘質 ベース
10. 25Y6/4 にふい黄 粘土～中粒砂 やや粘質の粘質層 φ100～300mm 程混合

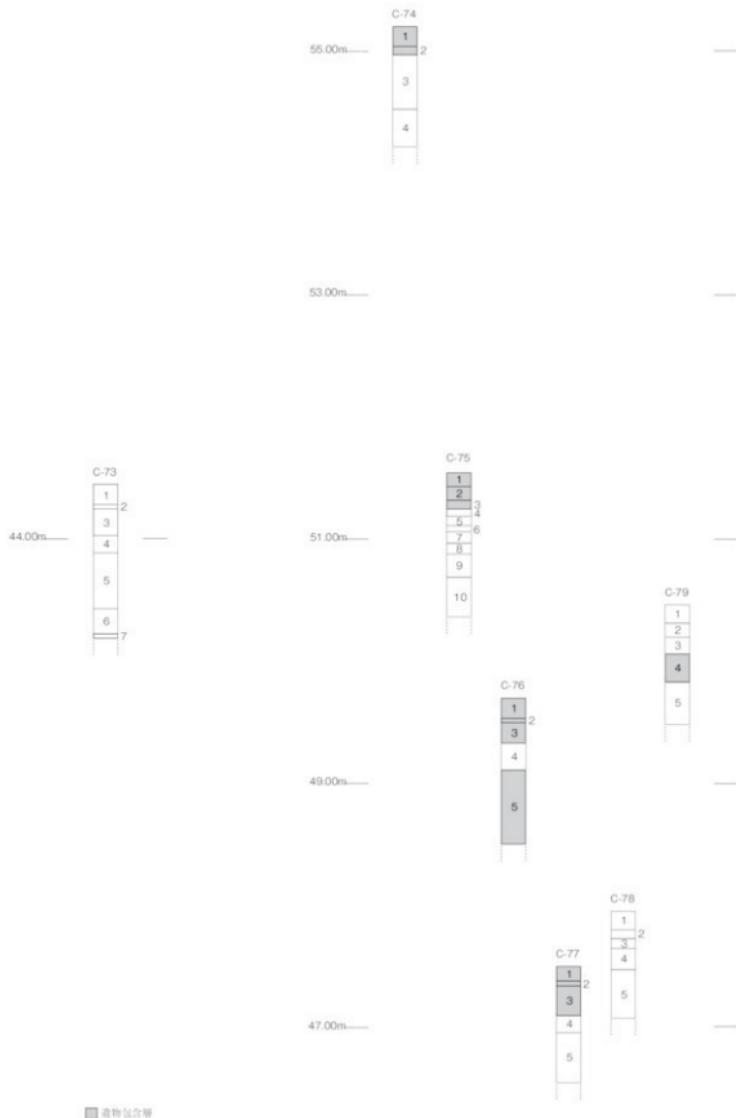
## C-71

1. 10YR5/2 黄灰褐 地盤粒砂～粗粒砂 (旧耕作土)
2. 25Y7/4 浅黃 地盤粒砂～中粒砂 若干無機粒砂含 マンガン斑有 床土 密度高
3. 25Y7/5/2 黄灰褐 地盤粒砂～粗粒砂 黄素少合 φ2～3mm 程層 (黄) 合 φ3～5mm 程粒角丸合 しまった堆積
4. 10YR4/1 黄灰 地盤砂～無機粒砂 しまった堆積 φ2～3mm 程合
5. 25Y7/4 黄灰褐 シルト～地盤粒砂 粘質の泥層 φ20～50mm 程多く含む (亜角礫)
6. 25Y6/2 黄灰 粗粒砂～地盤粒砂 程層 φ500mm 程多く含む (亜角礫)

## C-72

1. 10YR5/2 黑黒 地盤粒砂～粗粒砂 (型)
2. 10YR7/6 明黄褐 地盤粒砂～地盤粒砂 しまった無機な層 型の基盤
3. 7.5Y6/8 棕 地盤粒砂～シルト φ2～5mm 程織合む 鉄分充て
4. 10YR6/2 黄灰褐 シルト～無機粒砂～粗粒砂 (φ3～10mm) しまった砂層 φ100～200mm 程混入 ベース
5. 10YR7/6 明黄褐 シルト φ2～10mm 程層が40%程混入 粘質の織層 φ100～200mm 程混入 ベース
6. 7.5Y6/4 にふい黄 シルトにφ3～10mmの程40%混入 粘質の織層ややすなっはい (無機粒砂～粗粒砂混ざる)

▶ 図 34 坂本地区柱状図2



▶ 図 35 坂本地区柱状図 3

## C-73

1. 25Y7/1 黄灰 細粒砂～シルト(耕作土)
2. 25Y7/6 明黄褐 細粒砂～中粒砂 しまった粘質層 粘繩( $\phi 2\sim3mm$ )少  
量含む 床土
3. 25Y6/1 黑灰 シルト～粗粒砂 しまった粘質層 硬い  $\phi 10\sim20mm$  粗粒  
繩プロック混入 灰化物含む 少量  $\phi 10\sim20mm$  粗粒混入 人为的な盛土か?
4. 10Y3/1 黑褐 細粒砂～細粒砂 細粒砂多く含む 粘質の繩層
5. 25Y6/6 明黄褐 シルト～粗粒砂(粘土) ベース 粘質水分少含んでね  
ばい
6. 25Y7/4 浅黄 粘土 少量粗粒砂と粗粒砂含む  $\phi 2\sim3mm$  粗粒含む
7. 25Y7/6 明黄褐 シルトに粗粒砂～中粒砂混 粘質の繩層

## C-74

1. 10Y3/6/1 黒灰 (耕作土)
2. 10Y3/4 黑～3/2 黑褐 マンガン混多い 硬い 若干層混 床土
3. 10Y3/7/6 明黄褐 粘土(～シルト)  $\phi 3\sim5mm$  粗粒多く(40%)混 ベース
4. 粘土 粘質強い  $\phi 100\sim200mm$  粗粒含む

## C-75

1. 10Y3/6/1 黒灰 細粒砂～シルト(耕作土)
2. 10Y3/7/1 黄白 細粒砂～シルト(床土)
3. 10Y3/6/1 黑灰 細粒砂～シルト(旧耕作土)
4. 10Y3/6/4 に3/2 黄褐 細粒砂～シルト(旧耕作土+床土)  $\phi 2\sim5mm$  粗  
粒含む
5. 10Y3/6/1 黑灰 細粒砂～シルト
6. 10Y3/6/4 に3/2 黄褐 細粒砂～シルト  $\phi 2\sim5mm$  粗粒含む
7. 10Y3/5/2 黄黃褐 中粒砂(～粗粒砂) 若干シルト混 硬い粘質
8. 10Y3/2/1 黑褐 細粒砂～粗粒砂混化物含む 硬い粘質
9. 10Y3/6/6 明黄褐 シルト(～粘土) 少量粗粒砂混  $\phi 50\sim100mm$  粗粒含む  
ベース
10. 10Y3/6/2 黄黃褐 粗粒砂～粗粒  $\phi 100\sim200mm$  粗粒含む 硬い粘質の繩  
層

## C-76

1. 10Y3/5/1 黑灰 細粒砂～シルト(耕作土)
2. 10Y3/7/6 明黄褐 細粒砂～シルト) 粒分沈着(床土)
3. 10Y3/5/2 黄黃褐 他細粒砂(～粗粒砂)  $\phi 20\sim20mm$  粗粒多く含む 層理  
面上部に黒褐色有
4. 10Y3/6/6 明黄褐 細粒砂～シルト)  $\phi 10\sim30mm$  粗粒 40%  $\phi 100\sim$   
200mm 粗粒含む 粘質の繩層
5. 10Y3/4/2 黄黃褐 他細粒砂(～粗粒砂)+シルト 硬い粘質  $\phi 100\sim300mm$   
粗粒混 少量混 ベースプロック少量混
6. 10Y3/6/6 明黄褐 シルト(～粘土) 硬い粘質  $\phi 100\sim150mm$  粗多く含む  
ベース

## C-77

1. 10Y3/6/2 黄黃褐 細粒砂～シルト(旧耕作土)
2. 10Y3/1 黑褐 細粒砂(～粗粒砂)  $\phi 2\sim5mm$  粗粒
3. 25Y7/4 浅黄 シルト(～粗粒砂) 粗粒砂～粗粒 ( $\phi 10\sim100mm$ ) 多く含  
む 硬い粘質の繩層 人为的な盛土か?
4. 10Y3/5/2 黄黃褐 細粒砂～中粒砂  $\phi 100mm$  粗粒 層に極所的に 75Y3/6/8  
粗粒砂が堆積 道場ではない
5. 10Y3/2/6 明黄褐 シルト(粘土) 若干粗粒砂混  $\phi 50\sim100mm$  粗(～角繩)  
多く含むベース

## C-78

1. 10Y3/6/1 黑灰 細粒砂～シルト(耕作土)
2. 25Y7/8 黄 細粒砂(～粗粒砂) しまった粘層(床土)
3. 25Y7/3/4 に3/1 黄 色 細粒砂  $\phi 5\sim30mm$  粗粒 硬い粘質
4. 10Y3/4/2 黄黃褐 細粒砂～シルト) 硬い粘質  $\phi 2\sim5mm$  粗粒混  $\phi$   
100mm 粗粒混 少量混
5. 25Y8/4 深黄 シルト(粘土)  $\phi 50\sim150mm$  壁角繩多く混 ベース

## C-79

1. 10Y3/6/1 黑灰 細粒砂～シルト

▶ 図 36 坂本地區柱状図4

ある。中世～近世期と考えられる遺物の分布は全体として希薄で、後世の耕作に伴って流入したものである可能性もある。

C-53～55、58で確認される遺物では、弥生時代の所産と考えられる石器の比率が高い。とくに2次加工のある剥片やチップ状の小片が多く採取された。今回の調査では明確な遺構は確認し得ていないが、周辺に集落が残存する可能性は高いものと考えられる。

なお、この調査結果を受けて、平成20年7月に当該地点をトイクラ遺跡として新たに埋蔵文化財包蔵地として周知することとした。

## 6 坂本地区（図32～図36）

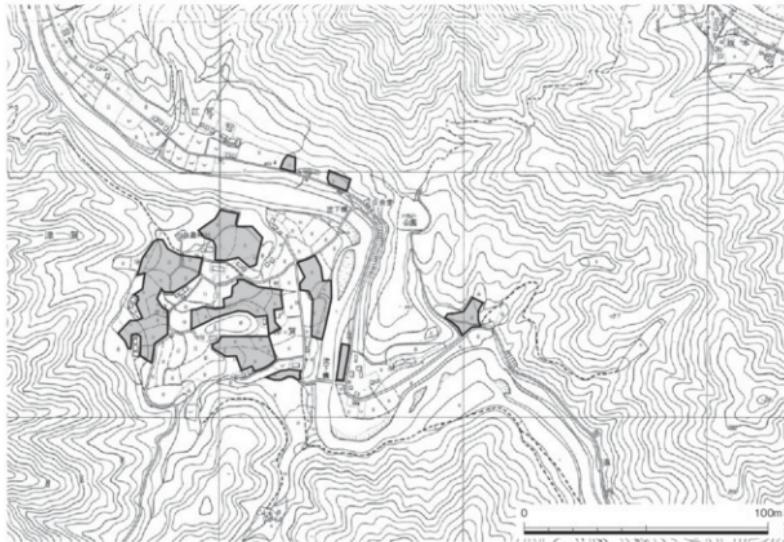
坂本地区では目黒川右岸の自然堤防上に立地するほ場を調査した。当該地点は道路を隔てて山側の傾斜面と川側に大別できる。遺物は川側ではC-64から、山側ではC-74～77、79で確認している。いずれも耕作土直下の黄橙色極細粒砂～シルトを中心として出土するが密度は低い。出土遺物は碎片が少量出土するのみで、器面の観察等から近世期の所産と考えられるが、明確な時期の判定は困難である。

C-75、76では不定形の土坑を各々1基確認している。こちらも時期の判別は難しいが、当該地域で水田が形成される以前の所産と考えられる。

### （4）津賀地区（D区）

#### 1 コブキ地区（図38～図39）

コブキ地区は丘陵先端部の比較的高所に位置する平坦面を中心とするほ場でありD-1～4の4トレンチを設定した。当初平坦面(D-1, 2)付近に遺構等が分布するものと期待されたが、当該小地区では遺構・遺物ともに確認し得なかった。



► 図37 津賀地区周辺位置図（1/2,000）

## 2 津賀中央地区（図40～図53）

**津賀中央地区的概要** 津賀中央地区は目黒川右岸の独立丘陵を取り巻くように集落が展開し、丘陵斜面及び谷地形を水田として利用している。斜面を整形し、石組みを多用して水田域を確保しており、農地の拡充に伴って何度も地形の改変が行われていることが想定される。

津賀地区は今回の調査対象地のなかでもっと多くの調査トレーンチを設定した地点である。当該地区にはD-5～52まで、合計48箇所のトレーンチを設定している。当該地区は事業実施に合わせて調査を2ヵ年に分けて実施した。このうち平成19年度に実施したものを図40、平成20年度に実施した箇所を図47～49に整理した。

**基本層序** 今回調査対象とした津賀中央地区は、丘陵斜面部に水田を形成しており、一部が谷地形に含まれるが、各調査トレーンチの堆積状況を見る限り大きな差は認められない。基本的に、堆積は全体として目黒川に向かう斜面堆積である。なお、部分的に後世には場の拡大等をはかるためと思われる旧地形の改変や、災害等によるものとおもわれる変化が看取される。

基本的な層序を整理すると、以下の3層に大別できる。

- I 耕作土、
- II 橙～褐色極細粒砂層、
- III 基盤層（礫含む粘質土）

場所によって耕作土とIIの極細粒砂層の間に整地層と考えられる粘質土が見られる場合がある。明確な包含層は全体を通じてみられないが<sup>a</sup>、耕土直下で基盤層に達することを勘案すると後世の削平によって失われてしまった可能性もある。

**調査の成果** 図40で遺物・遺構を確認しているのは、D-5、8、10～12、14、15、22、26である。表面採取であるD-26を除けば、ほぼ現耕作土から出土であり、遺物の所産も近世期頃と想定されるが、碎片のため明確な判断は難しい。D-15では柱穴と考えられる遺構が丘陵疊層上面で検出された。小規模な柱穴で、付近に対応する柱穴も確認していないが、耕作地としての土地利用が始まるまでに存在した遺構と考えられる。

津賀地区については、かつて土地の改変や災害による影響が及ぶ以前に埋蔵文化財が一部に残存していた可能性は否定できないが、現在周辺でそれらを確認することは難しいものとおもわれる。

平成20年度実施の調査で遺構を検出したD-46においても包含層はなく、浅い位置で検出される基盤層上で遺構が確認されている。調査の成果当該地区で遺物、遺構を検出したのは、D-29、D-30、D-33、D-46である。

D-29で出土した陶器類は近世期のものと現代のものが混在しており、近年に一括して廃棄されたものであろうと考えられる。唯一遺構を検出したD-46出土の遺物は、細片が多く明確に時期を特定し得ないが、土師器の胎土等から中世～近世期の所産と考えられる。D-46では12基の柱穴を確認した。いずれも耕土直下で検出される明橙褐色の粘質土上面で検出され、深さ20～30cmほどが残存する。調査面積が限られているため柱穴間の関連を明らかにできたわけではないが、配列に一定の方向性が認められ、上部構造を持つ建築物を構成しているであろうことが想定される。

D-46付近にいくつかのトレーンチを設定し、遺構の広がりを確認したが、いずれにおいても遺構は検出されず検出した水田部にのみ遺構が分布するものと思われる。

現在の住居の立地を見ると、丘陵の比較的安定した平坦面に1戸もしくは2戸程度の家屋が建てられており、多くの民家が軒を並べてはいない。このように居住域と農地が明確に区分されず、農地の近くに管理者の住居が営まれることは津賀地区における農地と家屋の配置の特徴であろう。また、このような景観は住居の建築様式等から近年に形成されたものとは考えられず、少なくとも江戸期以前



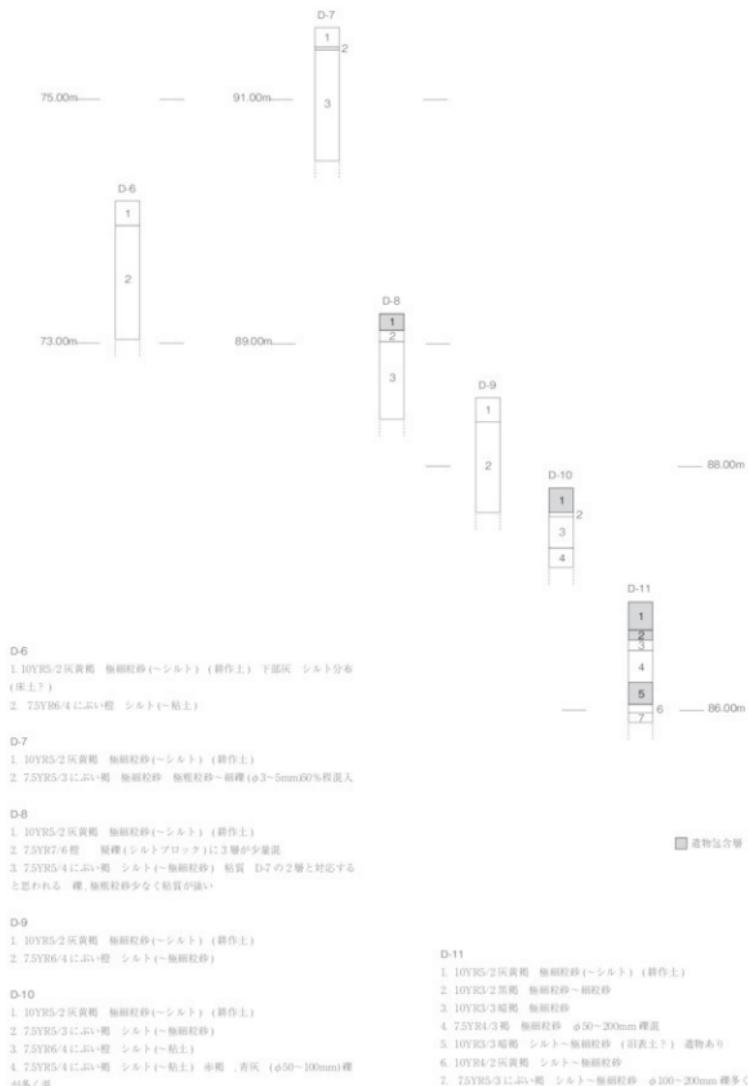
▶ 図 38 コブキ地区トレーンチ配置図



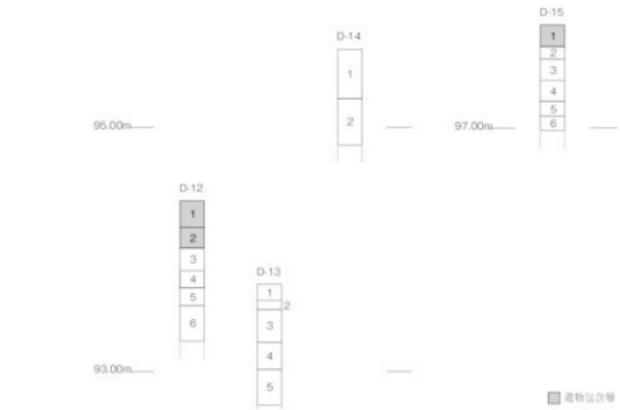
▶ 図 39 コブキ地区～中央地区柱状図



▶ 図 40 中央地区トレーニング配置図 1

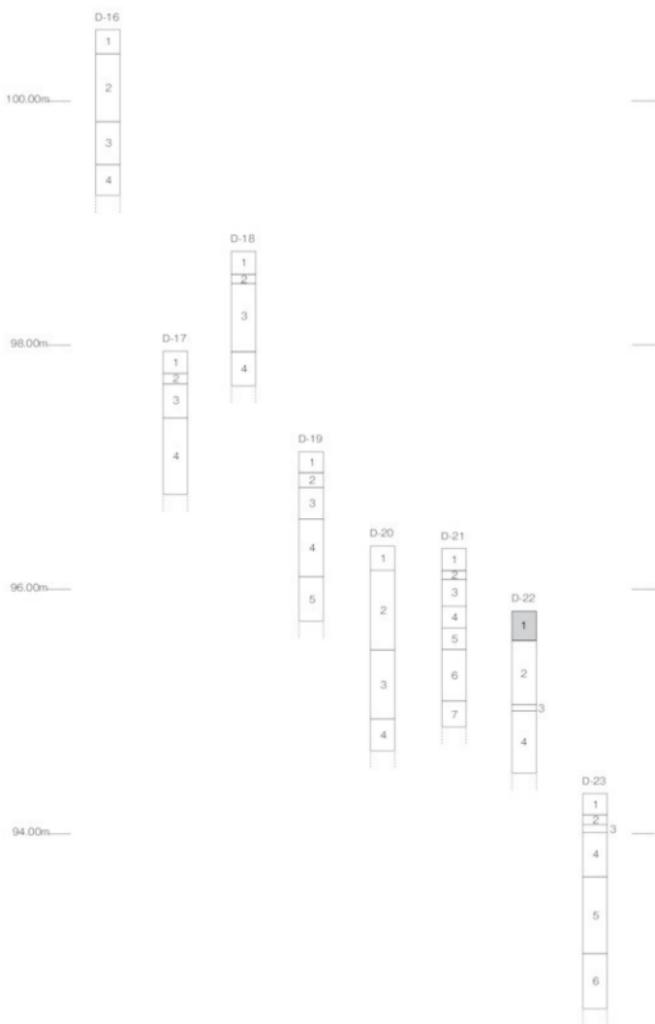


▶ 図 41 中央地区柱状図



- D-12
1. 2SY4/1黄灰 植被粒径(～シルト)(耕作土)
  2. 2SY7/3浅黄 植被粒径(～シルト) φ10mm程度少量混
  3. 2SY4/1黄灰 粗粒～植粗粒径(粗粒φ10～15mm) φ50mm粒少量混
  4. 2SY7/4浅黄 シルト～植粗粒径) φ5～10mm粗粒 30%混
  5. 2SY4/1黄灰 中粒粒(～植粗粒径) シルト混 粘・粘質 φ80～100mm粒少量混
  6. 2SY7/6明黄褐 植粗粒径(～中粒粒)～植粗粒径 φ5～10mm粗粒 10%混  
ベース
- D-13
1. 10YR4/1褐灰 植植被粒径(～シルト)(耕作土)
  2. 10YR3/1黑褐 植植被粒径～植粗粒径 しまった粘質土
  3. 10YR5/3(2.5)黄褐 植植被粒径(～シルト) 植粗粒少量 φ40mm粒含む
  4. 3層に5層が若干混入 しまらないやわらか層 φ40mm粒含む
  5. 10Y3/2(2.5) 黒褐 植植被粒～シルト
  6. 10YR6/6明黄褐 シルト～植粗粒径) 粘質 植粗粒径10%混 ベース 6層  
上面 CSP-1全確認
- D-14
1. 10YR3/2(2.5) 黑褐 植植被粒(～シルト)(耕作土)
  2. 10YR6/6明黄褐 植植被粒(～シルト) 若干シルト混 φ300～800mm半角礫
- D-15
1. 10YR5/1褐灰 植植被粒(～シルト)(耕作土)
  2. 10YR3/1黑褐 植植被粒～植粗粒径 しまった粘質土
  3. 10YR5/3(2.5)黄褐 植植被粒(～シルト) 植粗粒少量 φ40mm粒含む
  4. 3層に5層が若干混入 しまらないやわらか層 φ40mm粒含む
  5. 10Y3/2(2.5) 黑褐 植植被粒～シルト
  6. 10YR6/6明黄褐 シルト～植粗粒径) 粘質 植粗粒径10%混 ベース 6層  
上面 CSP-1全確認

▶ 図 42 中央地区柱状図 2



■ 毒物混含層

► 図 43 中央地区柱状図3

#### D-16

1. 10YB6-1 鶴岡 緩粗粒砂(～シルト) (耕作土)
2. 7.5YB6-8 横 緩粗粒砂(～シルト)  $\phi 10\sim20mm$  粗繊少量混入 上部層  
裏面にマンガン斑斑、下部に暗灰シルト(～緩粗粒砂)が局所的に堆積
3. 7.5YB6-8 横(～6cm程) 緩粗粒砂(～シルト)  $\phi 50\sim80mm$  粗繊微量混入
4. 7.5YB6-2 鶴岡 シルト(～緩粗粒砂) 破くしまる  $\phi 200mm$  程(重円)  
混入 若干3層も混入する

#### D-17

1. 10YB6-1 鶴岡 緩粗粒砂(～シルト) (耕作土)
2. 7.5YB6-3/にい・鶴シルト(～緩粗粒砂) 若干マンガン斑斑  $\phi 2\sim5mm$  粗繊微量含む
3. 7.5YB6-6 横 シルト(～粘土) しまった粘質層 ねばい  $\phi 5\sim10mm$  粗繊 少量混入
4. 7.5YB6-4/にい・鶴 シルト(～緩粗粒砂)  $\phi 5\sim10mm$  粗繊 30%混入 やや塊い・砂粘質の層

#### D-18

1. 10YB6-1 鶴岡 緩粗粒砂(～シルト) (耕作土)
2. 7.5Y3/1 黒堀 緩粗粒砂(～シルト)  $\phi 2\sim5mm$  粗繊混 かたくしまる
3. 7.5YB6-8 横 緩粗粒砂 やや粗粒化する  $\phi 200mm$  程混入
4. 7.5YB6-1 鶴岡 中粒砂～粗粒砂 緩粗粒砂～ $\phi 2\sim5mm$  粗繊多く含む 少量シルト混 重角織多く含む ベース、3層はベースではなく土壁、底土と想われる 4層は重角織含むベース 程織 しまりなし

#### D-19

1. 10YB6-1 鶴岡 緩粗粒砂(～シルト) (耕作土)
2. 2.5Y7/1 広白 緩粗粒砂(～シルト) (マニガン斑が下部に集中する  
下部は $\phi 2\sim5mm$  粗繊混入) 硬い
3. 7.5YB6-4/にい・鶴 中粒砂～粗粒砂 シルト若干混入  $\phi 100mm$   
粗繊混入 やや塊い・粘質の堆積
4. 7.5YB6-3/にい・鶴 緩粗粒砂～粗繊( $\phi 5mm$ )  $\phi 100\sim150mm$  程混入  
程織
5. 7.5YB6-4/にい・鶴 緩粗粒砂(～粗繊 $\phi 5mm$ ) 粗量 $\phi 50mm$  程の粗繊  
入 ほぼ均質な粗繊

#### D-20

1. 10YB6-1 鶴岡 緩粗粒砂(～シルト) (耕作土)
2. 7.5YB6-6 横 中粒砂～粗粒砂  $\phi 10\sim20mm$  粗繊混入 シルト若干含  
み粘質 3層に似た粗粒砂層、黒板粗粒砂が不規則に混入する
3. 7.5YB6-8 横 緩粗粒砂(～緩粗粒砂)  $\phi 20\sim40mm$  粗繊含む しまりの  
ないボサボサの感覚
4. 7.5YB6-2 鶴岡 緩粗粒砂～粗繊( $\phi 5\sim10mm$ )  $\phi 100mm$  程合む 程  
織

#### D-21

1. 10YB6-1 鶴岡 緩粗粒砂(～シルト) (耕作土)
2. 7.5YB2/1 黒 板粗粒砂(～中粒砂) 黒呈現する土壁  $\phi 2\sim5mm$  粗繊  
少量混入
3. 7.5YB5-6 明黄 鋼粗粒砂(～粗粒砂) 板粗粒砂～粗繊( $\phi 2\sim5mm$ ) 少  
量混入  $\phi 20mm$  程粗繊含む
4. 7.5YB6-8 横 緩粗粒砂(～板粗粒砂) しまりのない堆積 (D-20) 3層と  
対応)
5. 7.5YB5-1 鶴岡 緩粗粒砂(～シルト)  $\phi 5\sim10mm$  粗繊20%混入 弱  
い粘質の疊合む層
6. 7.5YB5-2 鶴岡 緩粗粒砂(～シルト) 粘質 粘織(黄)含む  $\phi 5mm$   
粗繊微量含む
7. 7.5YB6-3/にい・鶴 粗粒砂(～中粒砂)  $\phi 50\sim100mm$  粗繊含む 程  
織

#### D-22

1. 10YB6-1 鶴岡 緩粗粒砂(～シルト) (耕作土)
2. 10YB6-6 明黄 鋼 中粒砂～板粗粒砂 若干シルト混  $\phi 30\sim50mm$  粗  
繊 (重円)含み弱い粘質を呈する粗織 板粗粒砂(～中粒砂)20%混入

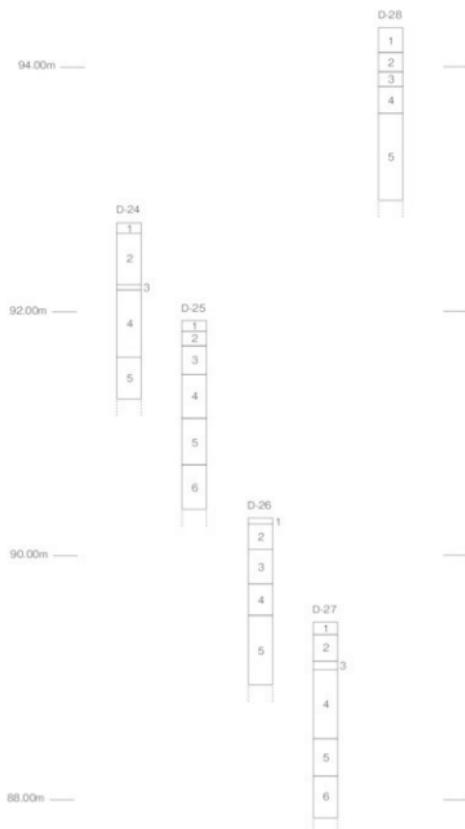
3. 2.5Y5/2 堀灰青 板粗粒砂(～シルト) しまった粘質層 2.5Y8 黄シ  
ルトが30%混入 下部にマンガン斑斑

4. 10YB6-6 明黄 鋼 シルト(～板粗粒砂)  $\phi 20\sim30mm$  粗繊 15%混入  
 $\phi 100\sim200mm$  重角織少量混入  $\phi 600\sim800mm$  重円織少量混入 強い粘  
質の層を多く含む層

#### D-23

1. 10YB6-6 明黄 鋼 板粗粒砂(～シルト) (耕作土)
2. 2.5Y5/2 堀灰青 板粗粒砂(～シルト) 粒状に黄シルトブロック混入
3. 10YB5/4/にい・黄 鋼 板粗粒砂(～中粒砂)  $\phi 40\sim50mm$  重角織混入
4. 10YB6-3/にい・黄 鋼 板粗粒砂  $\phi 20\sim50mm$  粗繊混入 程織
5. 10YB6-4/にい・黄 鋼 板粗粒砂(～シルト)  $\phi 2\sim5mm$  粗繊混入  $\phi 50\sim80mm$  程混入 固い粘質の程織
6. 10YB6-6 明黄 鋼 板粗粒砂(～シルト) D-22の4層とは同じ  $\phi 20\sim30mm$  粗繊  $\phi 150\sim200mm$  重角織少量混入  $\phi 600mm$  以上のはみら  
れない

図 44 中央地区柱状図 4



▶ 図 45 中央地区柱状図5

D-24

1. 10YR6-1 黒灰 極粗粒砂（～シルト）（耕作土）
2. 75YR6-6 黃 極粗粒砂（～シルト） 削い粘質  $\phi 2\sim 5mm$  細繩少量混入  $\phi 50\sim 100mm$  種混入
3. 75YR3-1 黑褐 極粗粒砂 繼土時の問題か？
4. 75YR6-6 黃 極粗粒砂（～シルト）  $\phi 50\sim 100mm$  種混（非円錐）10~20%混入 削い粘質
5. 10YR6-3 に古い黄褐 極粗粒砂（～細繩）  $\phi 100mm$  種混入、削い繩層

D-25

1. 10YR6-1 黒灰 極粗粒砂（～シルト）（耕作土）
2. 75YR3-1 黑褐 細粒砂～極粗粒砂 若干シルト 削い粘質
3. 25Y6-2 黄褐色 極粗粒砂（～細繩） 稲極粗粒砂が混入  $\phi 2\sim 5mm$  細繩含む削い粘質層
4. 10YR5-6 黄褐色 極粗粒砂（～細繩） 少量稲極粗粒砂混入、 $\phi 70\sim 100mm$  細繩含む 削く削い粘質の堆積
5. 10YR6-2 黄褐色 極粗粒砂（～細繩）  $\phi 100mm$  種混含む D-24 5 番と同じ
6. 10YR6-2 黄褐色 極粗粒砂～細粒砂 削い粘質の堆積  $\phi 3\sim 10mm$  細繩多く含む  $\phi 100mm$  種の種少混合む

D-26

1. 10YR6-1 黒灰 極粗粒砂（～シルト）（耕作土）
2. 10YR7-6 明黃褐 極粗粒砂（～シルト） 若干稻粗粒砂混入、硬くしまる粘質の堆積
3. 75YR5-6 明褐色 極粗粒砂（～細粒砂） 削い粘質の堆積  $\phi 30\sim 50mm$  種混少量含む
4. 25Y6-2 黄褐色 極粗粒砂（～粗粒砂） 若干シルト混入 やや粘質を呈する  $\phi 50mm$  細繩多く含む
5. 25Y6-2 黄褐色 極粗粒砂（～細粒砂）  $\phi 2\sim 5mm$  細繩で構成  $\phi 50\sim 300mm$  細繩含む 多くは半角繩 削い繩層

D-27

1. 10YR6-1 黒灰 極粗粒砂（～シルト）（耕作土）
  2. 25Y5-2 黑灰黄 極粗粒砂（～粗粒砂）  $\phi 5\sim 70mm$  種混入、削いしまった粘質の層
  3. 10YR6-6 明黃褐 極粗粒砂（～細粒砂）に 10YR5-2 黄褐色極粗粒砂が 15%混入 やわらかく削粘質の層
  4. 10YR5-6 黄褐色 極粗粒砂（～細粒砂）  $\phi 50mm$  種混入（少量） 上層土面上部に黑粗粒砂混入
  5. 25Y6-1 黄褐色 細粒砂（～極粗粒砂）～シルト シルト多く粘質  $\phi 100\sim 200mm$  種混 粘質の繩層
  6. 25Y6-1 黄褐色 極粗粒砂（～細粒砂）  $\phi 100\sim 300mm$  種混入 削い繩層
- D-26 5 番に対応するものと思われる

D-28

1. 10YR6-1 黒灰 極粗粒砂（～シルト）（耕作土）
  2. 10YR6-6 明黃褐 極粗粒砂（～シルト）  $\phi 2\sim 5mm$  細繩少量含む 削い粘質の層
  3. 75YR3-2 黑褐 極粗粒砂～細粒砂  $\phi 50mm$  種混少量混入
  4. 10YR6-6 明黃褐 極粗粒砂（～シルト） 2 番に似るが  $\phi 50\sim 100mm$  種混 少量混入する
  5. 25Y6-1 黄褐色 極粗粒砂（～細粒砂）  $\phi 100\sim 300mm$  種混入 削い繩層
- D-26 5 番に対応する

▶ 図 46 中央地区柱状図 6



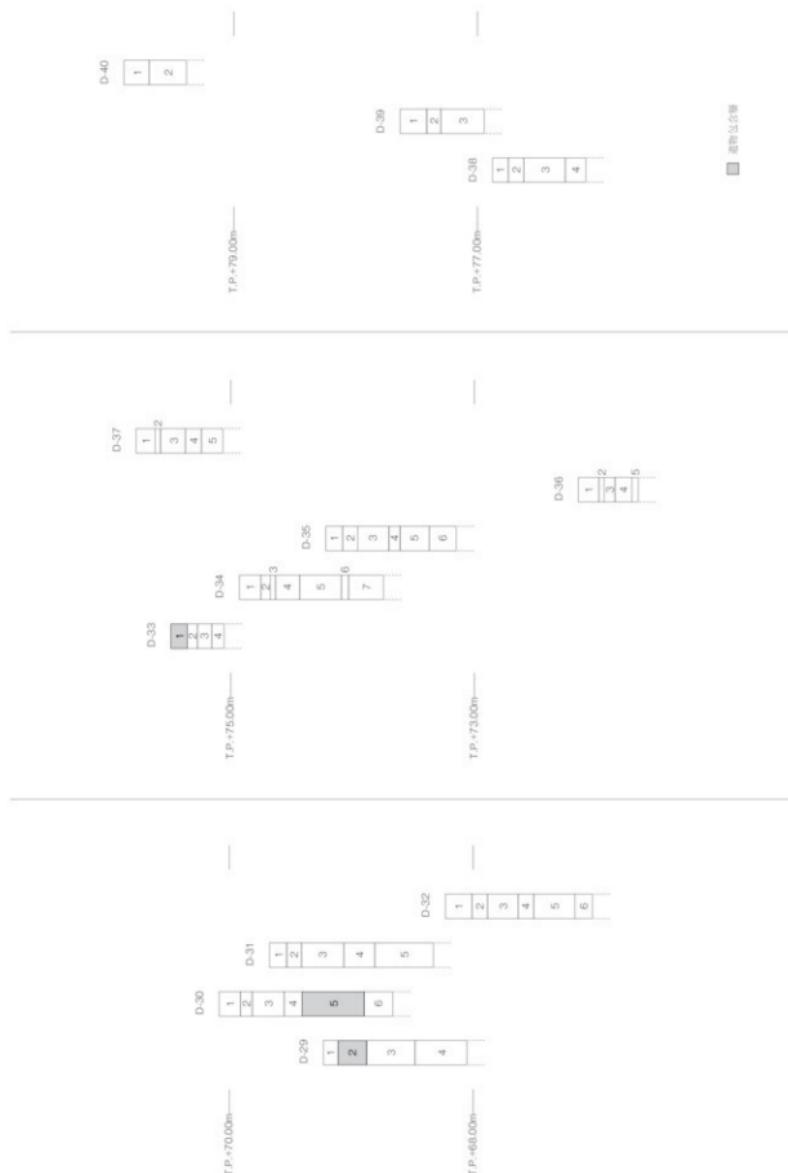
► 図 47 中央地区トレーン配置図2



▶ 図 48 中央地区トレンチ配置図 3

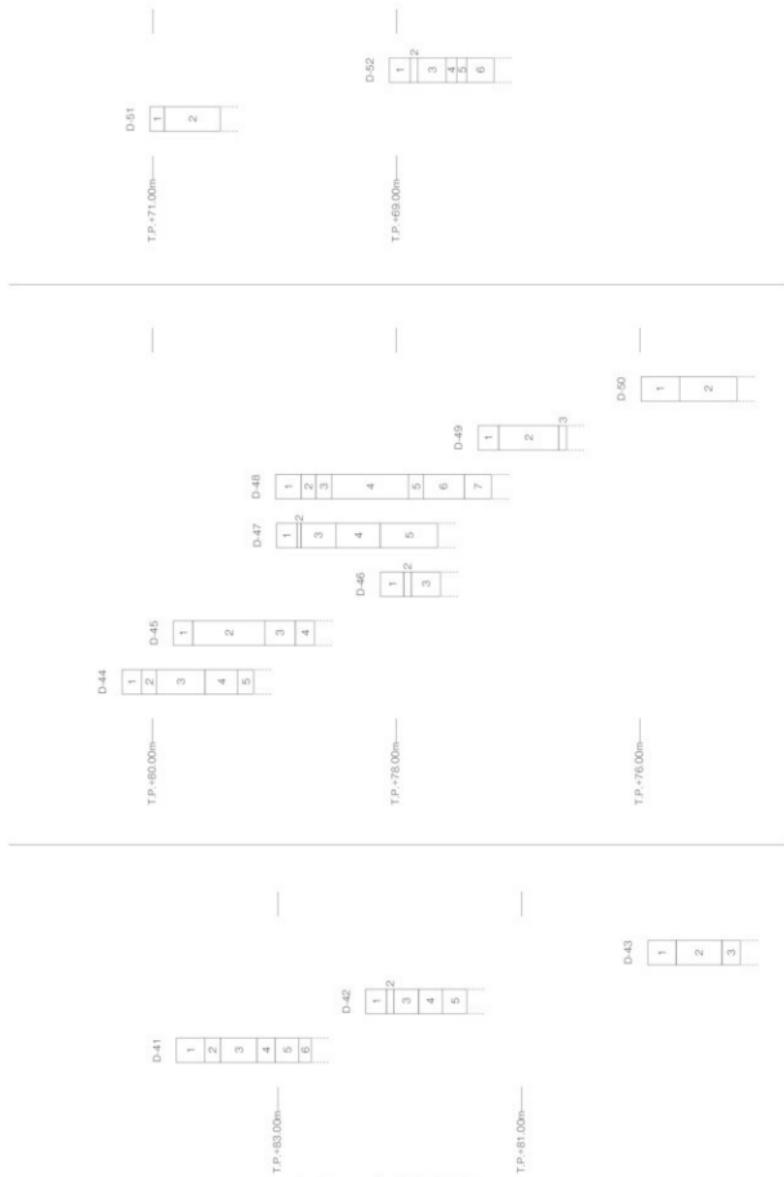


▶ 図 49 中央地区トレント配置図4



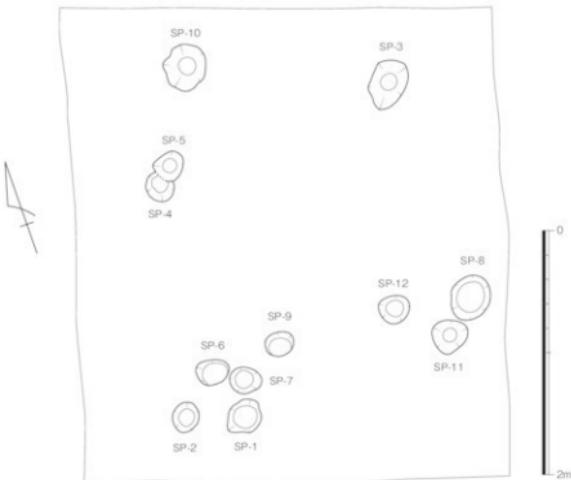
► 図 50 中央地区柱状図 7





► 図 52 中央地区柱状図 9

▶ 圖 53 中央地區柱狀圖 10



► 図 54 D-46 遺構平面図（1/40）

の生活様式が継続されているものと考えられる。

このような現状に照らしてD-46の柱穴群を考えると、農地の間に点在する住居に伴う建物の一角を今回検出したものと考えられる。

津賀地区の調査では、当該域の水田の多くが改変を重ねながら現在の形状を形作っていることが整地層等の状況から明らかになった。このような改変に伴い、一部の包含層が削平されている可能性も認められる。

今回確認し得た遺構はわずかであり、当該地区が旧来概ね農地としての土地利用が継続されていることが明らかとなった。

### 3 ブデン地区

ブデン地区は目黒川左岸の丘陵斜面に位置するほ場が調査対象地である。2箇所にトレントを設定したが、D-53は県道敷設時に削平を受けており、D-54でも包含層は確認されなかった。図は割愛する。

### 4 江尻地区

津賀江尻地区は、目黒川右岸に位置する河岸段丘上の河川と山稜が接する狭小な平坦地であり、現地は水田及び畠地として利用されている。当該地点は道路敷設時に改良工事がなされたと考えられ、道路付近は切り土もしくは盛り土による改変があったものと推測される。

調査は当該水田域に2カ所のトレントを設定し、遺跡の残存状態および分布状況を確認した。今回の調査では遺物・遺構ともに確認されておらず、土層の堆積状況からも当該地点に埋蔵文化財は残存していないことが明らかとなった。図は割愛する。

## 第Ⅱ章 重要遺構確認調査の成果

### 第1節 調査に至る経過

香山寺跡は弘法大師開山の言い伝えをもつ、市内でも古くからその存在が知られている寺院である。この香山寺東麓の坂本地区において平成17年度に高規格道路敷設に先立つ埋蔵文化財発掘調査が実施され、寺院にともなうものと想定される遺構群が多数確認された。この発掘調査成果によって川平山の頂上部にのみ展開していたと思われていた香山寺が、麓までを寺域にもつ広域な寺院である可能性が示唆されることとなり、香山寺跡は新たな視点での再評価の必要性が生じている。また、調査時に発見された15～16世紀の所産と考えられる3基の瓦窯も特徴的な遺構であり、平成21年3月に高知県史跡となっている。これらの遺構群の存在から寺院造営の背景に大きな経済的、政治的支援者が存在したことが想定される。

なお、当該時期は当市に前駆白一條教房が下向した時期でもあり、一條氏による幡多莊の回復と、在地領主層との新たな関係の枠組みが形成される当地域において歴史上の大きな転換期でもある。また、四万十川をはさんで対岸に位置する不破八幡宮が一條氏によって勧請されるなど、坂本遺跡を含め香山寺周辺においても一條氏の影響が強く及んでいることが明らかになってきている。

四万十市では坂本遺跡や香山寺およびその周辺についての歴史的検証が重要であるとの立場に立ち、継続的な香山寺跡についての調査を実施していくこととしており、平成18年～平成19年にかけて旧参道の途中に広がる最も広範囲な平場について試掘確認調査を実施する運びとなった。

**遺跡の概要** 本遺跡は現在、中筋川右岸に位置する川平山一帯に広がる埋蔵文化財包蔵地である。これまでに、山頂への車道敷設時にともなって実施された調査にて、丘陵の中腹付近で五輪塔を含む中世段階の墓域が確認されている。しかし、その後現在に至るまで発掘調査等は実施されておらず、遺



▶ 図55 香山寺跡及び調査地点位置図（1/40,000）

跡の様相は明らかでない。

**調査の内容** 今回、坂本遺跡の発見により東側の山麓まで寺域が広がっている可能性が示唆されたため、坂本遺跡と香山寺との関係を検討するための資料を得ることを目的とし、参道途中の平坦部についての重要遺構確認調査を実施した。

重要遺構確認調査としてトレンチを設定した地点は、地元では「寺の段」と呼称されており、地籍では「ヲハカダン」と表記されている。いずれにしても寺院もしくは墓域に関わる土地利用が想定される地点である。下記では調査の成果を「ヲハカダン」において実施した重要遺構確認調査について記述する。

## 第2節 ヲハカダンの調査

### (1) 調査の方法

調査対象地内に任意のトレンチを7箇所設定した。調査地は旧参道以外に侵入経路がなく、重機等の機材が搬入できないことから、人力にて表土層を除去し、遺構・遺物の発見に努めた。

調査の進行に応じて基本層序を確認し、土層堆積状況の実測図面の作成・写真撮影等により記録を残した。調査終了後はトレンチを埋め戻して原状に復した。

### (2) 基本土層

当該地点での層位は、丘陵尾根上に位置することもあり、堆積は浅く、現耕作土を除去すると丘陵を形成する基盤層が現れる。一部丘陵から流出した黄橙色極細粒砂からなる浅い堆積が見られる地点もあるが、概ね耕作土直下で基盤層を確認できる。なお、Tr-5付近では丘陵が不自然に平坦に延びており、人為的に丘陵の改変が行なわれた可能性が高い。後述するが、丘陵北側では基盤層のうえに盛り土を行うなど、整地の痕跡を看取ることができる。

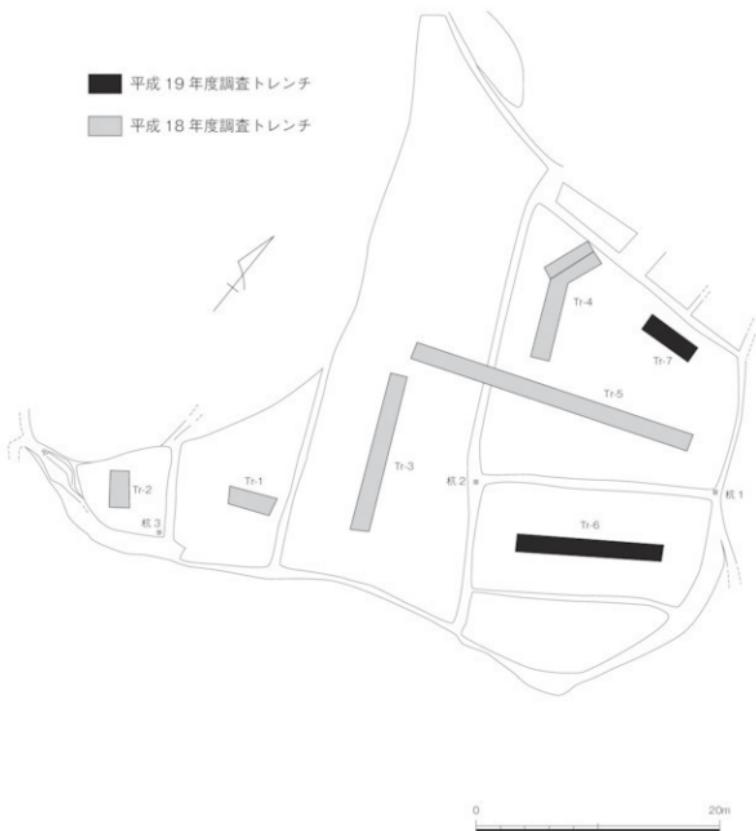
Tr-6付近は丘陵尾根上に位置することもあり、堆積は浅く、現耕作土を除去すると丘陵を形成する基盤層が現れる。一部丘陵から流出した黄橙色極細粒砂からなる浅い堆積が見られる地点もあるが、概ね耕作土直下で基盤層が確認される。

### (3) 各トレンチの調査結果

Tr-1を除く全てのトレンチで遺構および遺物を確認している。以下ではこれらのトレンチについてその概要を記述することとする。

**Tr-2** 調査地点でもっとも西側に位置するトレンチで、周辺では最も高所に位置するトレンチである。柱穴1基と土坑を2基を確認している。SK-2はトレンチ外へ延びるため全容は明らかでないが、直径が1.5mを超える大形のものである。深さは最も深い箇所で12mを測る。埋土内には下部  $\phi$ 40～50cm程の亜円礫が多く混入しており、礫間は堆積物で埋まっておらず、隙間がみられる。堆積の状況から比較的短時間で埋め戻された印象を受ける。土坑の大きさ及び深さから墓壙の可能性が高いものと思われるが、堆積状況から後世に掘り起しが行なわれているのではないかと想定される。

当該土坑は丘陵の裾部分に位置しているが、土坑より3～4m程上部の丘陵斜面に御影石製の小型五輪塔の火輪、地輪が乱石した状態で存在している。地元での聞き取りから、ほ場として利用する以前から周辺に存在したことが知られ、当該地点の墓所としての利用を示唆するものと考えられる。



▶ 図 56 ラハカダン トレンチ配置図 ( 1/400 )

Tr-3 南北に13m、東西幅1.5mで設定したトレンチである。耕土直下で基盤層が現れ、基盤層上面で遺構が確認される。検出された遺構はすべて柱穴であり、小径であるものの良好な残存状態で11基を確認した。北側に向かって堅密な丘陵基盤層がみられるようになり、遺構数は減少する。

Tr-4 調査区内で最も北側に位置するトレンチである。今回の調査で唯一明確な遺物包含層を確認した。南側は耕土直下で基盤層に達するが、北側は黒色の遺物包含層が存在する。このことから基盤層の傾斜と、包含層の堆積状況を確認するため、調査区を拡張した。

包含層からは15世紀前半～16世紀頃の所産と考えられる備前擂鉢破片や、青磁碗細片が出土する。遺構は柱穴を10基確認しており、他所と比して密度はTr-4がもっとも高い。遺構検出面は3層を除去後の4～8層である。

4層から9層にかけては明黄褐色極細粒砂を主として、細礫やブロックを多く含む層位が12mほど堆積する。いずれの層位からも土師器や青磁の細片が出土する。出土する遺物の時期は3層出土のものと大差なく、4～8層の堆積には時間幅は認められない。堆積の状況や遺物の時期等を勘案すると、4～9層は盛土による整地層と考えてよいものと思われる。

Tr-5 丘陵の長軸方向に沿って設定したトレンチであり、延長は24mをはかり今回の調査区の中で最も長い。耕作土を除去すると堅密な基盤層が直下で現れる。丘陵裾部付近ではほとんど遺構が確認されないので対し、東側ではまばらに柱穴や土坑が確認される。東端ではゆるやかに基盤層が傾斜を始めている。

Tr-6 調査地点でもっとも南東側に位置するトレンチで、周辺では最も低い地点である。長辺約12m、短辺約12mをはかる。トレンチ内で柱穴1基(SP-31)と土坑(SX-1)を1基確認している。土坑はトレンチ外へ延びるため全容は明らかでない。これらの下層より整地層を確認しており、SX-1については、整地層の伸びる方向とほぼ平行した伸びを示すことから、整地層の上部の堆積を考えるべきかもしれない。SX-1とした埋土は、黒色で下部の整地層の堆積とは明らかに異なるため、今回は別個の遺構として独立して調査を行った。

整地層の上部では亜円礫が多く混入し、円礫のほかにも礎石として利用されたものと考えられるやや不定の四角形をなす礫や花崗岩製五輪塔の火輪等が含まれている。前年の調査では、整地層は深いところで12mほどを測ったが、今回は深い地点でも1mに及ばない。しかし、整地層中に五輪塔の部材等が含まれることから、整地層埋没過程で上記遺物が含まれた可能性以外にも、整地層の形成時期が複数あるものか、整地層形成以前にも当該地点が墓域として利用されていた可能性等も検討する必要が出てこよう。

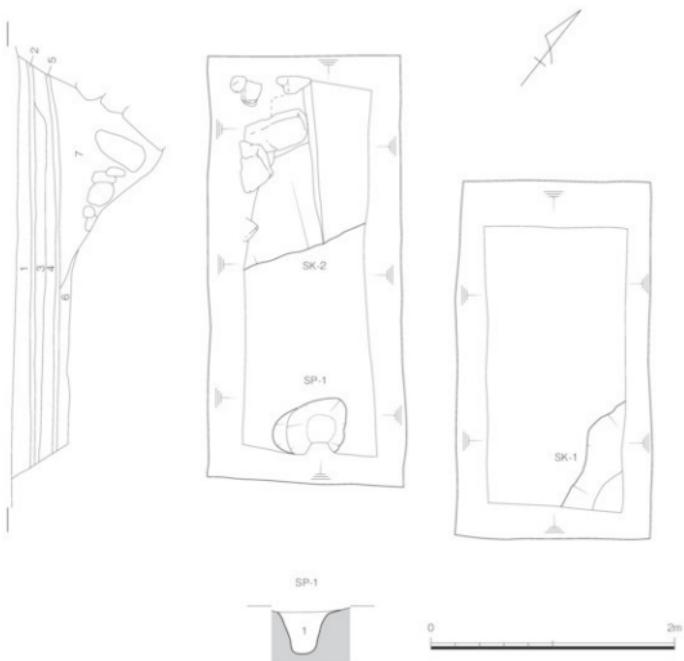
整地が行われる地点を比較すると、Tr-5の落ちとほぼ平行していることが分かる。Tr-5調査時（平成18年）の東隅は落ちとしていたが、Tr-6状況と合わせて考えると、整地の始まりで見られる堆積の乱れであったものと考えられる。

Tr-7 南北に12m、東西幅5mで設定したトレンチである。耕土直下で整地層が現れ、整地層上面で遺構が確認される。検出された遺構はすべて柱穴であり、小径であるものの残存状態は良好である。整地層は東半のみを除去して深さを確認し、西半分は整地層上面で埋め戻しを行った。

整地層の下部ではφ10cm前後の亜円礫が多く混入し、これらの除去後丘陵の礫層があらわれる。

#### (4) 出土した遺物（図67・68）

遺物を多く出土したのはTr-4、Tr-5の2トレンチである。細片が多いが遺構群の時期を知る資料である。1～7、16は青磁碗口縁部である。4、5を除く全てに簡素化した線描きの蓮弁文が観察される。9は釜体部片と思われる。外面に斜タタキが観察される。10・11・17は土師皿底部、12は壺底部である。10、12、17は底部に回転糸切り痕が残る。13・14は土錐である。15は備前擂鉢である。



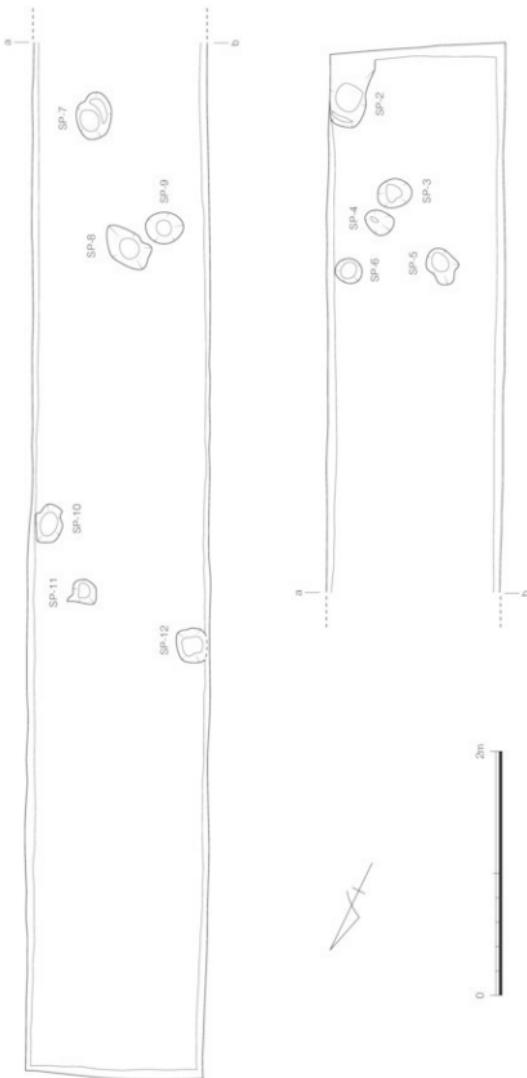
#### 南北壁面

1. 10YR3/2b ~ 4/2 黒褐 細粒砂（～無筋粒砂） 割合上
2. 10YR2/6 明黄褐 細粒砂（シルト） 白色シルトプロック層 床上
3. 10YR6/4 にぶい黄褐 細粒砂（～細粒砂）  $\phi 10 \sim 30mm$  細繊混 合 北側に多い 若干跡上に似た褐色細粒砂層
4. 10YR6/2b ~ 5/2b にぶい黄褐 細粒砂（～細粒砂） 褐色屢文（鉄分）あり 南側でやや厚くなる 微量細繊混
5. 10YR5/2 黄褐 細粒砂（～無筋粒砂） 少量ベースの黄褐シルト混
6. 10YR4/2 黄褐 中粒砂（～粗粒砂） 層理面上部に鉄分沈着、その直下に黒色の細繊混細粒砂が塊になる 微量ベース 黃褐シルト含む 包含層 SP1・SK1-2ともにこの層の上面もしくは中から切りこむ
7. 上部にはペースブロック（ $\phi 20 \sim 30cm$  前） 砂が多く下面に存在する 砂までは灰黄褐 細粒砂（～粗粒砂）が確に堆積 砂の間にには空洞もあり比較的短時間で埋没しているものと考えられる

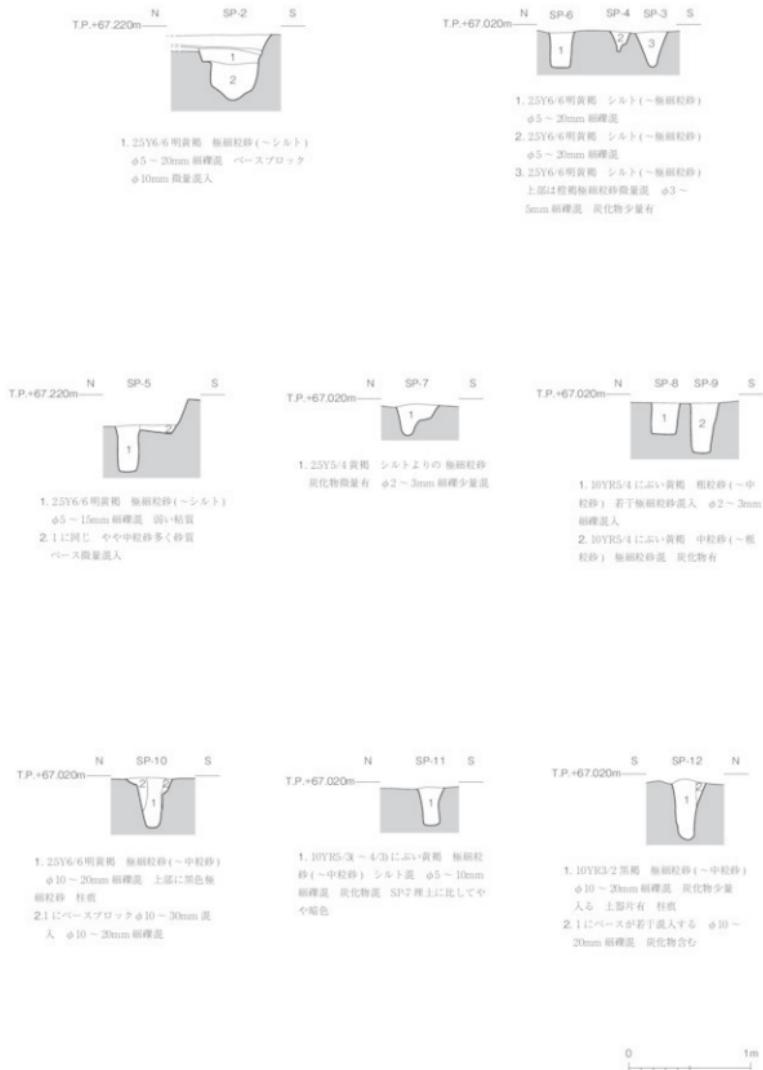
#### SP-1

1. 10YR5/3 にぶい黄褐（粗粒砂～） 中粒砂 剥離質  $\phi 10 \sim 30mm$  細繊混 均質なやわらかい堆積

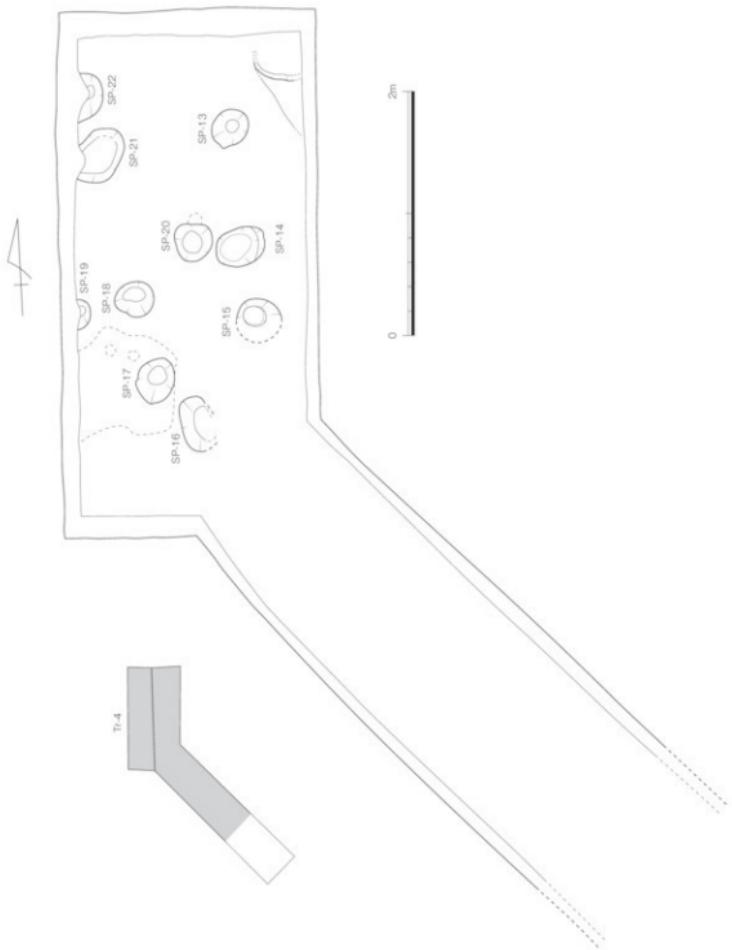
▶ 図 57 Tr-2 遺構平面・断面図（1/40）



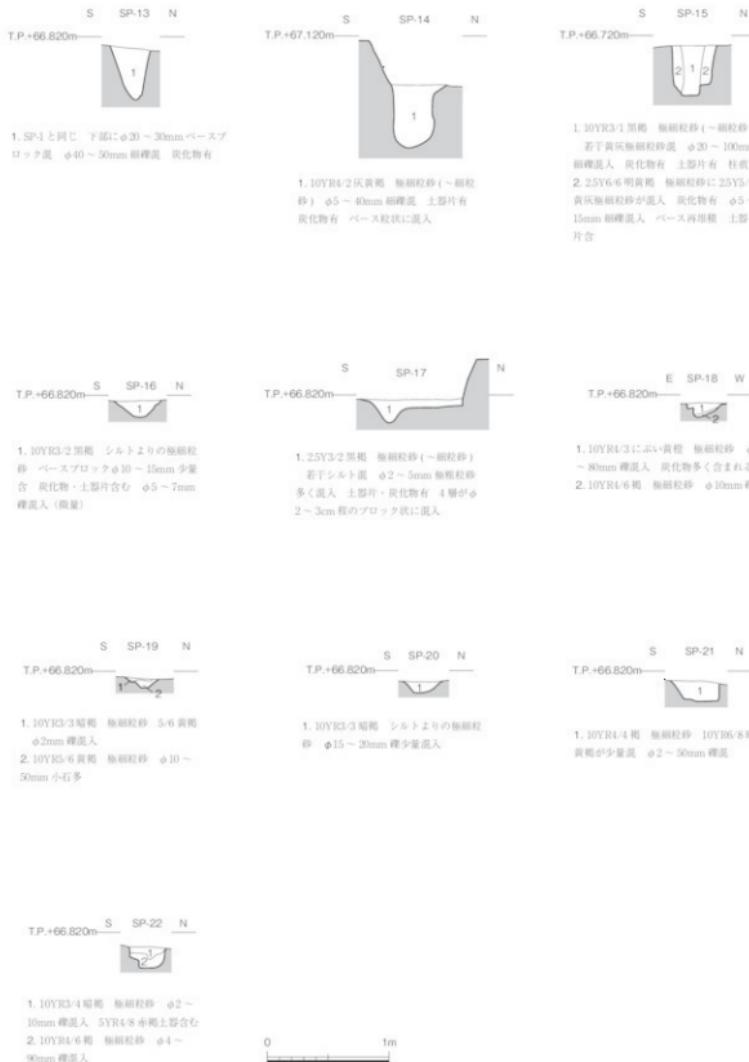
▶ 図 58 Tr-3 遺構平面図 (1/40)



▶ 図 59 Tr-3 遺構断面図 (1/40)



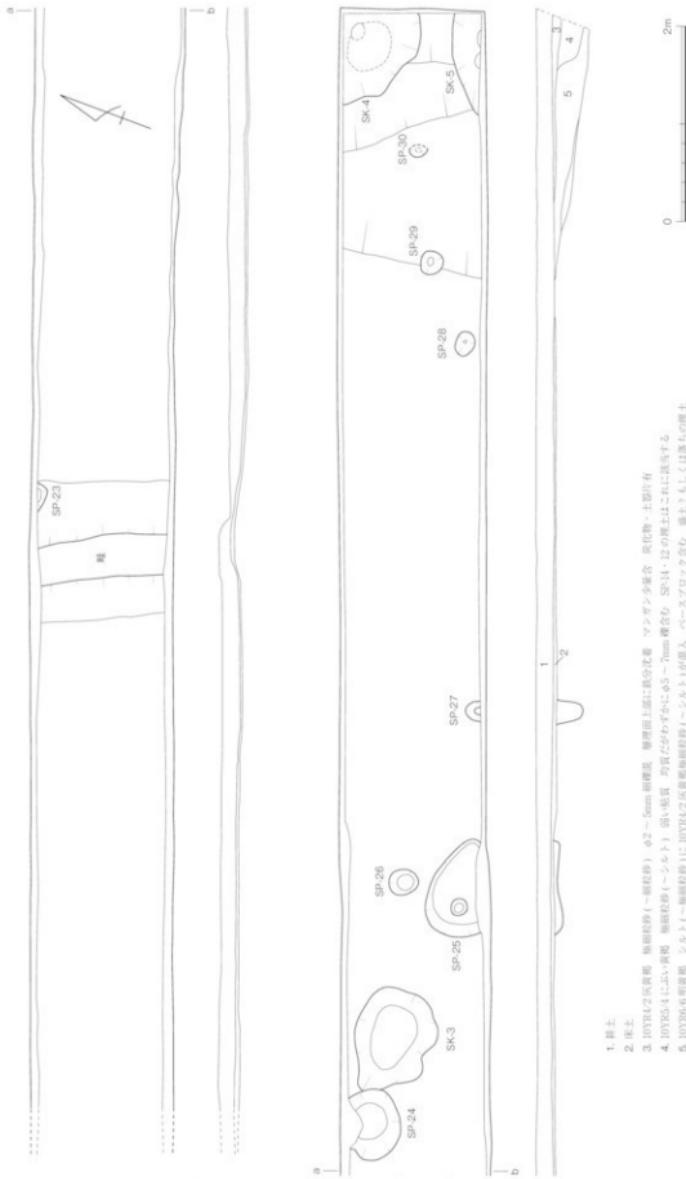
► 図 60 Tr-4 及び拡張区 遺構平面図 ( 1/40 )

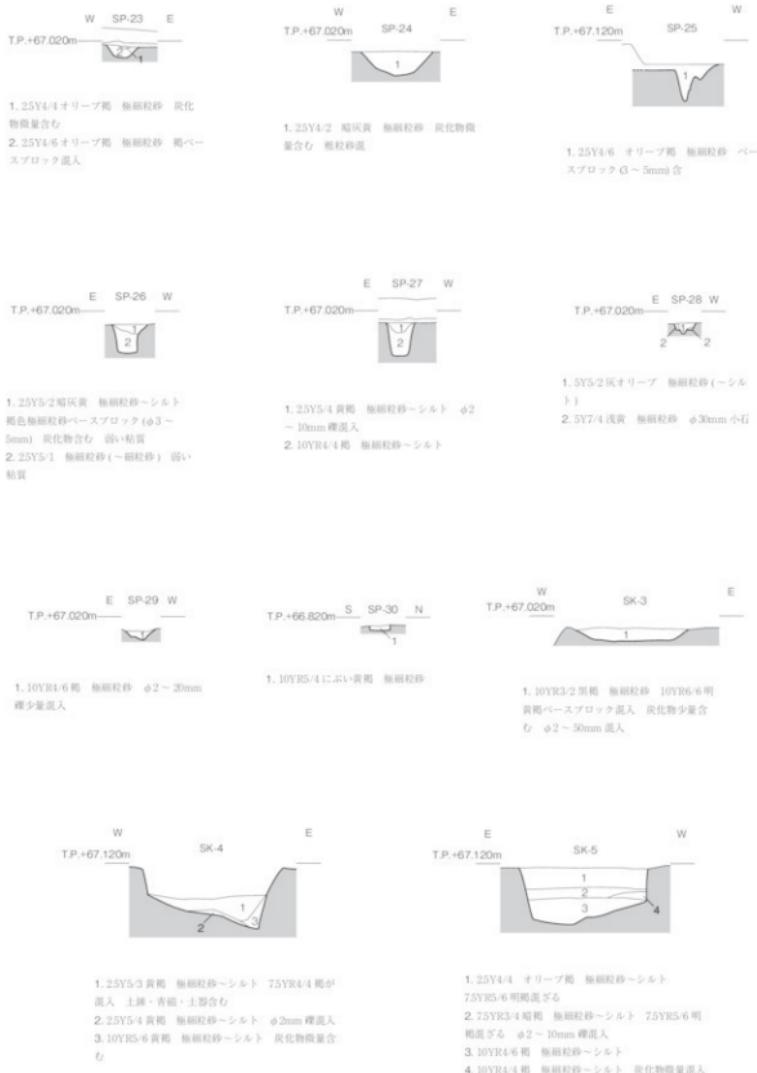


► 図 61 Tr-4 及び拡張区 遺構断面図 ( 1/40 )

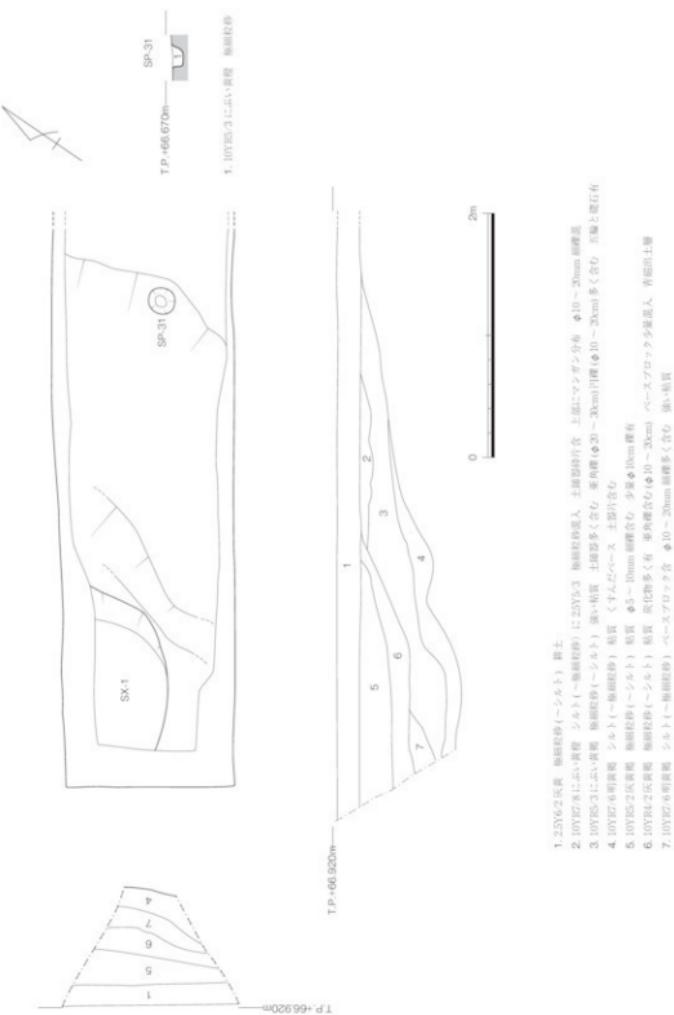


► 図 62 Tr-4 拡張区 東側壁面図 ( 1/40 )

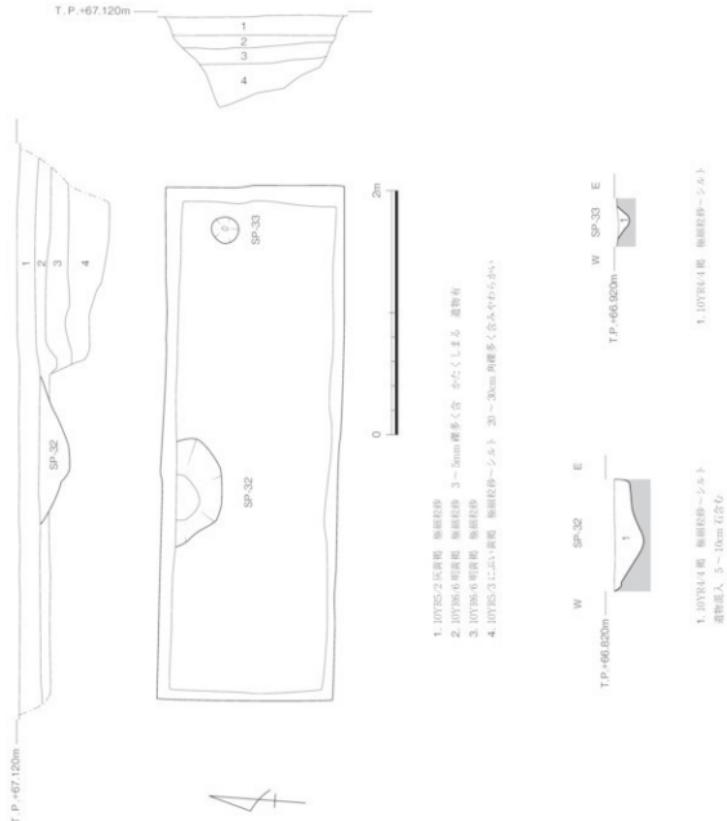




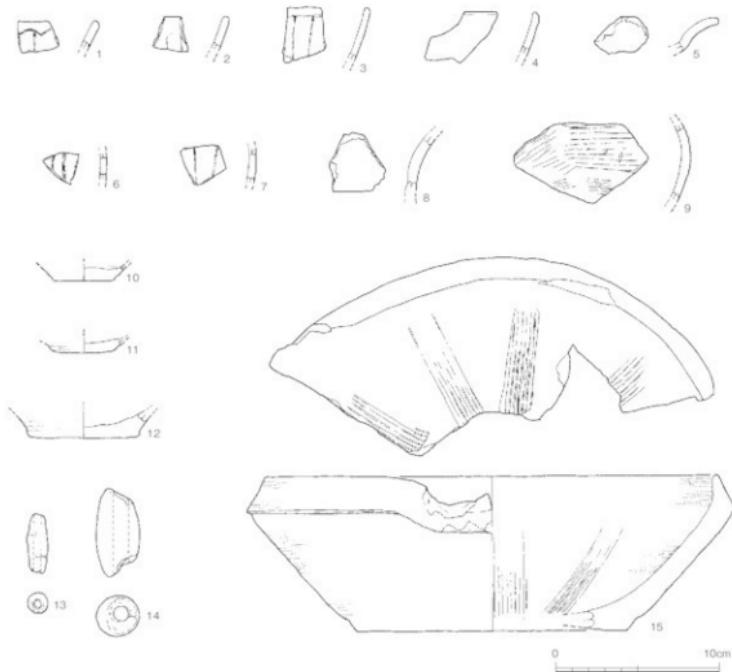
▶ 図 64 Tr-5 遺構断面図 (1/40)



▶ 図 65 Tr-6 遺構平面・断面図（1/40）



► 図 66 Tr-7 地質構造図 (1/40)

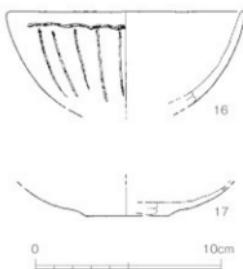


▶ 図 67 出土遺物 1 (1/3)

## (5)まとめ

今回の調査では、7箇所のトレンチを設定し、うち6箇所で遺物および遺構を検出した。また、Tr-4では整地層と思われる堆積を確認した。調査面積が限られていたことから柱穴間の関係が明らかでなく、当初地名から想定された「寺」を確証付ける資料は乏しいが、墓壙らしき土坑、五輪塔など埋葬施設についてはその存在を確認することができた。また、擂鉢等の日用雑器類が出土することからも、当該地点でも小規模ながら生活が営まれていたであろうことが推測される。

整地層が顕著に確認されたTr-4付近からTr-7、Tr-5、Tr-6と丘陵の辺縁に沿ってU字状に整地が行われたことが明らかとなつた。とくにTr-4付近の整地は深い場所で80cmほどの盛土が行わされており、当該事業にはかなりの労働力が費やされたものと考えられる。整地による平坦面の拡張は坂本遺跡でも見受けられた事



▶ 図 68 出土遺物 2 (1/3)

象であり、当該遺構群との関係が示唆される。

五輪塔や土坑等が確認されるヲハカダン南側では、北側で多く見られた擂鉢等の生活雑器、青磁等の奢侈品等の出土は減少する。これはヲハカダンの平坦部のなかでも土地の利用形態が異なることに起因する現象であろうと思われる。

以上のように2期の調査を通じて、ヲハカダン周辺は概ね坂本遺跡と時期を同じくして存続し、平坦部の南側が墓域的に利用され、北側は整地による平坦部の拡張を行い居住域として利用されたことが想定されるに至った。ヲハカダンは四万十川の河口域までを一望できる好所であり、坂本遺跡が中筋川へと週上する際の起点に立地することを勘案すると、当該地に存在した施設は宗教的意味合い以上の役割を担っていた可能性も考えられよう。

本報告では香山寺中腹にある平坦地、ヲハカダンでの重要遺構確認調査について報告した。

龍からヲハカダン、山頂を繋ぐ香山寺旧参道には中世期の石造物や堀切等坂本遺跡や当該調査成果と時期を同じくする遺物・遺構が残存することが明らかとなってきており、その様相を明らかにする目的で平成20年度より継続して分布調査および測量調査を実施している。今後、周辺での調査成果をまとめ坂本遺跡を含めた香山寺周辺の歴史的位置付けを更新とともに当該資産の利活用についても検討していきたい。

## (6) 遺物観察表

固 番号	出版番 号	形 横	符 級	法量 (cm)	色 調				出 土 地 点			
					口側	器高	外側	内側	断面	調査区	通横	層位
67	1	青磁楕	口縁部 外面に織描き蓮弁文	~	~	10Y6/2 オ リーブ灰	10Y6/2 オ リーブ灰	25Y8/2 黒 白	Tr-4 長強区		3層	
67	2	青磁楕	口縁部 外面に織描き蓮弁文	~	(21)	7.5Y5/2 黒 オリーブ	7.5Y5/2 黒 オリーブ	3Y6/2 黒 オリーブ	Tr-4		4層	
67	3	青磁楕	口縁部 外面に織描き蓮弁文	~	~	10Y5/2 オ リーブ灰	10Y6/2 オ リーブ灰	25Y8/1 黒 白	Tr-4 SP-17	1層		
67	4	青磁楕	口縁部 無文	~	~	2.5GY7/1 明オリーブ	2.5GY7/1 明オリーブ	5Y7/1 黒 灰	Tr-4 長強区	SP-17	4層	
67	5	青磁花瓶?	口縁部 内面に刻划文	~	(21)	10Y4/2 オ リーブ灰	10Y5/2 オ リーブ灰	25Y8/1 黑 白	Tr-4		3層	
67	6	青磁楕	体部 外面に織描き蓮弁文	~	~	10R6/2 オ リーブ灰	10R6/2 オ リーブ灰	7.5Y8/1 黑 白	Tr-4		3層	
67	7	青磁楕	体部 外面に織描き蓮弁文	~	~	10Y6/2 オ リーブ灰	10Y6/2 オ リーブ灰	10R7/3 に ぶい黄橙	Tr-4 SP-17	4層		
67	8	青磁?	内面 緑釉	~	~	7.5Y6/2 黑 オリーブ	10Y7/2 に ぶい黄橙	5Y7/1 黑 白	Tr-4		表様	
67	9	鍋?	体部片 外面斜タキ 内面ナデ	~	~	5YR5/4 に ぶい赤褐	5YR7/6 棕	5YR7/6 棕	Tr-4 SP-13			
67	10	土師器	小皿底部 円盤状 回転条切り	~	(1.0)	7.5YR7/6 棕	7.5YR7/6 棕	7.5YR7/6 棕	Tr-4		5層	
67	11	土師器	小皿底部 円盤状 摩耗著しく調 整不明	~	0.9	7.5Y8/6 棕 黄褐	7.5Y8/6 棕 黄褐	7.5Y8/6 棕 黄褐	Tr-5 SP-17		1層	
67	12	环	底部 回転条切り	~	(1.7)	7.5YR7/6 棕	7.5YR7/6 棕	7.5YR7/6 棕	Tr-4		5層	
67	13	土師	小型品	~	3.65	5YR5/1 黑	5YR5/1 黑	~	Tr-5		1~2層	
67	14	土師	中型品	~	6.45	2.5Y8/3 棕 黄	2.5Y8/3 棕 黄	2.5Y8/3 棕 黄	Tr-5 SP-17	1層		
67	15	壺前部	平底 体部は直線的に開く 7条 の柔軟 開口部開く	(27.6)	9.5	10R5/3 水 鵝	10R4/3 水 鵝	5YR5/1 水 鵝	Tr-4		3層	
68	16	青磁楕	口縁部 外面に織描き蓮弁文	(3.0)	6.25	10Y5/2 オ リーブ灰	10Y5/2 オ リーブ灰	5Y7/1 黑 白	Tr-6 SX-1			
68	17	土師器	底部 円盤状 回転条切り	~	(1.6)	7.5YR7/6 棕	7.5YR7/6 棕	7.5YR7/6 棕	Tr-6 SX-1			

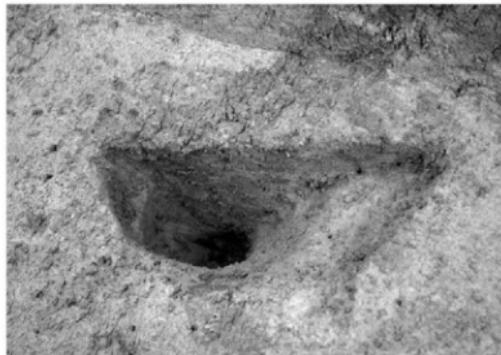




C 区（冲台）調査地点の現状



C-5 完掘状況



C-5 柱穴半裁状況



C 区（トイクラ）  
C-53 完掘状況



C 区（トイクラ）  
C-55 完掘状況



C 区（トイクラ）  
C-58 完掘状況



D 区（津賀）  
D-46 遺構完掘状況



D 区（津賀）  
D-46 柱穴半裁状況



ヲハカダンから四万十川を望む



ヲハカダンの全景



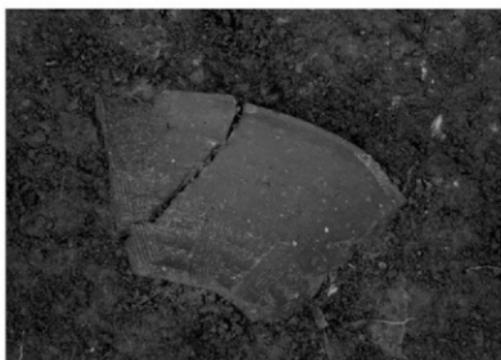
Tr-2 完掘状況



Tr-3 完掘状況



Tr-3 SP-12 半裁状況



Tr-4 撃鉢（15）出土状況



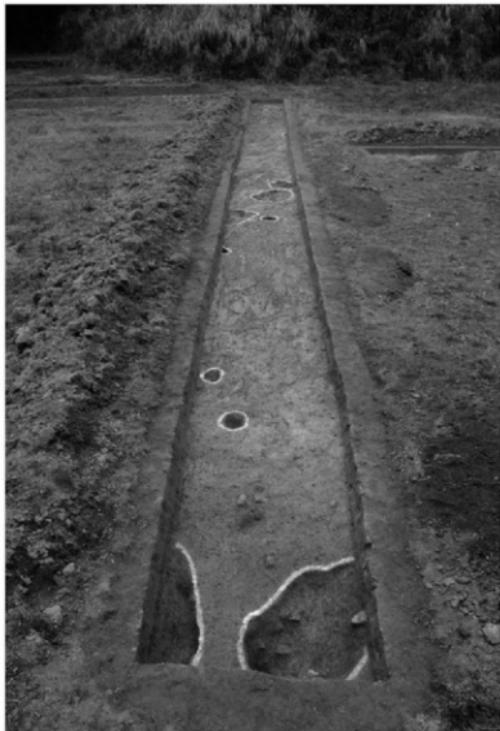
Tr-4 拡張区



Tr-4 遺構掘削状況



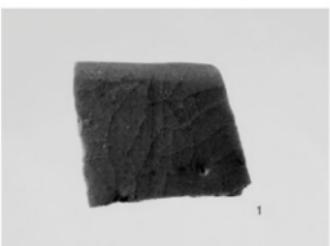
Tr-4 拡張区東壁壁面



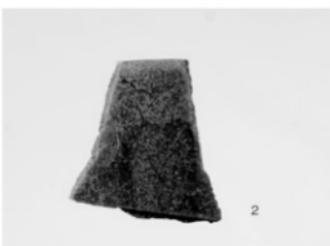
Tr-5 完掘状況



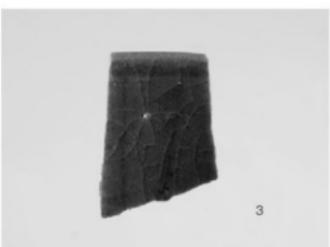
Tr-5 SP-26 半裁状況



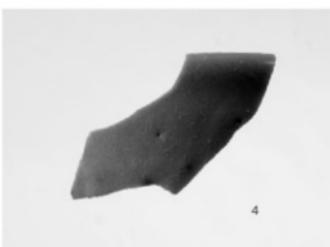
1



2



3



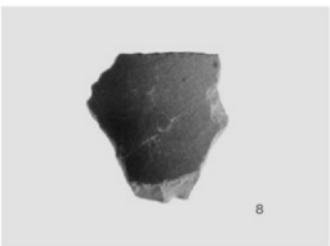
4



5



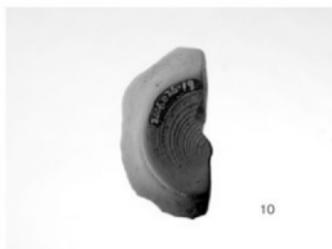
7



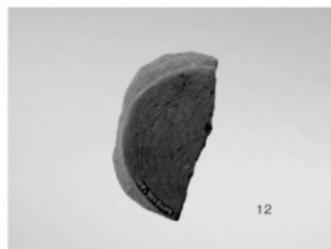
8



9



10



12



13



14



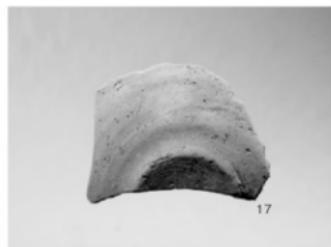
15



15



16



17

## 報 告 書 抄 錄

ふ り が な	しまんとしまいぞうふんかさいはくつちょうさほうこく							
書 名	四万十市複数文化財発掘調査報告							
著 書 名	平成 18 年度～平成 20 年度 市内遺跡試掘確認調査及び重要遺構確認調査報告書							
著 者								
シ リ ー ズ 名	四万十市文化財調査報告							
シ リ ー ズ 番 号	第4編							
編 著 者 名	川村 信也							
編 著 機 關	四万十市教育委員会							
所 在 地	〒787-0012 兵庫県四万十市右山五月町 8-22 TEL 08800345311(生涯学習課)							
発 行 年 月 日	西暦 2011 年 3 月 29 日							
所 収 遺 路 名	所 在 地	コ 一 フ 市町村 通路番号	北 緯	東 緯	調査期間	調査面積	調査 原 因	
四 角 田 遺 路	四万十市右山佐津野川神谷	390207	520045	37° 8' 58"	132° 47' 0"	061221～070306	200 ㎡	中山間地域総合整備事業
トイ ク ラ 遺 路	・佐津野川トイクラ		520046	37° 8' 23"	132° 46' 53"	080708～080715	325 ㎡	中山間地域総合整備事業
香 山 寺 路	・坂本川平山		070049	32° 58' 35"	132° 35' 32"	061128～070307 080229～080325	115 ㎡	重要遺構認定を 基に実施
所 収 遺 路 名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
四 角 田 遺 路	集 落	中 近 世	柱 穴	青磁・近世陶磁	中世段階の柱穴			
トイ ク ラ 遺 路	集 落	弥生時代	一	弥生土器・石器	古墳時代の遺物 古代～中世段階の集落址			
香 山 寺 路	集 落	中 近 世	柱 穴	青磁・攝南都跡	中世の寺院関連遺構			

四万十市文化財調査報告 第4輯

四万十市埋蔵文化財発掘調査報告

平成23年(2011年)3月29日発行

発行 四万十市教育委員会

〒787-0012 高知県四万十市右山五月町8-22  
TEL 0880(34)7311

編集 生涯学習課 社会教育振興係

印刷 有限会社 西村謄写堂